関東学院学報　第31号　2006年 3月24日　発行：関東学院　編集：関東学院広報課

人になれ 事仕せよ
1884~2009
125th ANNIVERSARY

関東学院 学報

KANTO GAKUIN NEWS

31

[関東学院学報 2006.3]

大学工学部新棟(オリーブ・テクノ・センター)金沢八景キャンパス内

関東学院大学学長に就任するにあたって

松　井　和　則

本日は学長就任式にお集まりいただきありがとうございます。私は、初代の白山源三郎先生から数えて16代目の学長になります。

長い歴史を誇る関東学院は、先人がたの知恵と努力によりまして、関東大震災、第２次世界大戦、大学紛争など幾多の苦難を乗り越え、今日まで発展してまいりました。

今度は少子化の難局と立ち向かわなくてはなりません。１９９２年に２０５万人いた18歳就学人口は、２００９年には１２０万人に減少し、２００５年の出生児数は１１０万人を割りました。高等教育機関への進学率も頭打ちの状態で、２００７年度に数字上は全入時代になります。

この第16代の学長に課せられた４年間の任期はまさにこの全入時代の幕開けに重なり、今後を占う上で重要な時期にあたりますので、その責務を考えますと身の引きしまる思いがいたします。

私は、当然のことながら仕事にベストを尽くすつもりではありますが、学長一人で仕事ができるわけではありません。教職員全員の協力や助けがあって始めて事が運びます。みなさまの知恵や力をお借りしてその職責を果たしたいと考えております。

現時点で、私の考えていることを幾つか述べさせていただきます。

まずは、４年間の最大テーマは何であるかです。

学生の安定確保を行うこと、これが第一優先です。これをいつも頭に置きながら仕事をしていきたいと考えています。学生確保の方策で短期的にできることは速やかに実行し、これと並行して将来の改革プランも作成していきます。

改革の進め方、プロセスも重要です。トップダウン方式とボトムアップ方式、これをうまく組み合わせて教職員のモチベーションを高めながら改革を進めることができるなら、改革は成功すると考えています。改革の担い手は教職員です。

そして大学の直面している多くの懸案事項からして、適切でスピーディーな意志決定を行うことが必要です。そのために学長のブレインとして、副学長、学長補佐などを置きたいと考えています。その他にも多くの人材が本学にはいますので、全学の総力を結集して少子化の危機を乗り越えたいと考えています。

理念だけでは大学は生きていけない。理念なき大学は生きていく資格がない。財政論なき教育論は無力であり、教育論なき財政論は不毛である。教育を使命としている以上、関東学院大学はなんのために存在しているのか、何の目的を持ってわれわれは教育研究をしているのか。大学のミッションを明確にしていくこと、これは非常に大切なことです。

ユニバーサルアクセス化した現在の大学では、大学の使命は教育や研究のみならず学修過程を通じた人格形成も求められています。そのような時代にあってまさに関東学院大学はその重要な役割を担っていく大学になることでしょう。なんとなれば関東学院は「人になれ　奉仕せよ」の校訓をもち、学則の第１条には、「キリスト教に基づく人格の陶冶を旨とし」、「学術の理論及び応用を教授する」とうたっているからです。19世紀に建てられ、20世紀を経て、

21世紀もさらに関東学院大学が関東学院大学であり続けるために、われわれは大学の教育理念をしっかりと再認識し共有する必要があります。

さて変革、改革とはいいますが、そう簡単に進むものではないでしょう。その道筋には多くの障害、対立が必ずやあらわれます。しかし、それらを回避しないで改革を進めるならば、必ずや大学は発展していきます。その問題が難問であればあるほど、それを解決して行く過程で、我々は学習し、知恵を蓄え、一人ひとりがそして組織自体が成長を遂げ、問題を解決した時に得られる成果は大きく、大学発展への大きなドライビングフォースとなるはずです。

最近読んだ本で、トリックスターという言葉を知りました。トリックスターとは、多くの神話や昔話に登場するいたずらもので、物語をひっかき回す役割を負っています。トリックスターは策略に富み、行動力、破壊力があり、秩序の破壊者となりますが、それによってこそ新しい秩序がもたらされることになります。今、本学にはトリックスターが必要で、たまたま私にこの役がふられたのではないかと考えています。関東学院物語の中でトリックスターとして語られるよう最大・最善の努力をいたします。

ミルクとハチミツの流れる約束の地にたどり着けるよう、皆さまとともに歩んでいくことを最後にお誓いして、学長就任式の挨拶といたします。

（2005年12月19日に大学礼拝堂で挙行された学長就任式において語られた就任挨拶より）

松井和則（まつい・かずのり）**略歴**

1952年鳥取県生まれ。1975年東京大学理学部卒業、1980年同大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程修了（理学博士）後、住友電工を経て、1986年関東学院大学工学部専任講師に就任、1987年助教授、1996年教授に昇格し、現在に至る。専門は光機能材料の物理化学。2002年4月から2005年12月18日まで工学部長を歴任。同年12月19日に学長に就任。任期は2009年12月18日までの4年間。趣味はハイキングと読書。

［目 次］

関東学院大学学長に就任するにあたって …… 1
松井和則学長

工学部新棟建設工事 …… 3
内藤幸穂理事長

関東学院創立125周年記念 事業計画について …… 4
津田宏之常務理事（企画担当）

社会に奉仕する学校法人
／日露修好150周年記念の講演とシンポジウム開催 …… 5

コンテスト主催で社会に奉仕する大学
／詩のコンテスト&エッセイコンテスト …… 6

関東学院の源流を探る23 …… 7
ロバート・E・フロップ博士（アメリカ・バプテスト宣教師／旧大学神学部教授／理事）

建学の精神を生きる …… 11
アジカン（ASIAN KUNG-FU GENERATION）ドラマー 伊地知潔さん

関東学院大学技術開発の実績 …… 13
大学ラグビー部、全国大学選手権9年連続決勝進出 …… 15
全国から注目される学生支援室 …… 17
活躍する個人・団体 …… 18
インターネットで合同クリスマス …… 19
生涯学習センター Information …… 20
関東学院創立121周年記念式挙行 …… 21
キリスト教教育活動他報告 …… 22
各校NEWS／編集後記 …… 23
同窓会だより …… 28
主な学校行事予定（4月～9月） …… 29

表紙：大学工学部新棟（オリーブ・テクノ・センター）金沢八景キャンパス内

人になれ 奉仕せよ
1884~2009
125th ANNIVERSARY

関東学院創立125周年記念ロゴ・デザインコンセプト

2009年に関東学院は、1884年、横浜山手に創立の横浜バプテスト神学校から数えて125周年を迎える。2009年は横浜開港150周年の年でもあり、同年を一つの目標として学院事業を展開して行く。これを記念して「創立125周年記念ロゴ」を制作した。このデザインコンセプトは、次のとおりである。
関東学院各校の校章は、オリーブをモチーフにしているので、周年記念のシンボルとしても採用した。そして建学の精神を端的に表す言葉、「人になれ　奉仕せよ」をシンボリックな言葉としてモチーフに加えた。ロゴの色は、スクールカラーのオリーブグリーンに加え、海を表すマリンブルーとの2色。学院になじみのある海のイメージが、白い波のラインで強調され、さわやかな躍動感を感じさせる。

Dr. Kazunori Matsui's Speech at the Presidential Inauguration

In an era with fewer children, we would like to definitely make a re-recognition of the principles of Kanto Gakuin University's education. Through this, I hope that all members of the KGU family will hold fast to our common goal and meet the expectations and demands of the future with all our strength and resources. It is hoped that all faculty members and staff will cooperate towards this goal.

オリーブ・テクノ・センター

工学部新棟建設工事

工学部新棟（オリーブ・テクノ・センター）

理事長　内藤幸穂

【建物概要】
設計監理：株式会社　山下設計　横浜支社
施　　工：西松建設株式会社　横浜支店
構　　造：鉄筋コンクリート造　地上6階
外部仕上：磁器質タイル貼　アルミカーテンウォール
建築面積：894.570㎡
延床面積：5,070.304㎡
建物内容：１階　工学部教育改革センター　表面工学研究所　産学連携推進室　産学連携実験室　テクノ・スクエア
２階　プロジェクトリサーチラボ（ハイテク・リサーチ・センター）クリーンルーム　2次元ナノ分析室　3次元ナノ分析室　共通分析室　バイオ実験室　男子リフレッシュルーム　女子リフレッシュルーム
３階　物理化学研究室　物理化学実験室　物質生命科学実験室１～２　生命科学研究室　生命科学実験室　無菌室
４階　オープンリサーチラボ１～２　電子情報実験室　電気実験室
５階　メディアコンテンツ・クリエイティブラボ１～２　情報工学実験室１～２
６階　ソフトウェア開発実験室　メディアコンテンツ制作実験室　ネットワーク構築実験室　マイコンシステム実験室

工学部新棟は無事故、無災害で金沢八景キャンパス内オリーブの広場に完成した。8号館と工学本館にはさまれたオリーブ広場は、学生の憩いの場として機能してきたものだが、工学部新棟の建設が俎上にのぼったとき、まず最初に課題となったことは、憩いの場所をなくすことの可否であった。それより以前に工学部は旧部室を改築した建物を実験棟として配分されていたので、それでいいではないかという意見もあった。また、平成19年から予想される全入時代に向けて、固定費の増大は控えるべきではないかとの意見もあった。さらに取得済みの南洋舎跡地に工学部を移転させるべしとする考えもあった。これらの意見はそれなりの重みをもっていたのだが、その時に金沢八景キャンパス内に高層の建物を設けるべしと主張した人々は、前に進むも後に下がるも苦渋の選択であっただろうが、「今着物を美しくするより、中味を充実するのが先決ではないか」という説に、「中味の充実と同時に着物を美しくしなければ、客はこちらを向いてくれない」と主張した人もいた。これらの「鶏が先かそれとも卵が先か」の議論は、今でこそ語れる物語りなのだが、新棟の施設概要は他の媒体で十分周知され承知されるであろうことから、ここでは建設工事をめぐる諸情勢について少し触れてみたい。

20世紀の当初、フランスの文芸家ジュール・ロマンは、ユナニミスム（一如集団気分）にはまって抜き差しならぬ体験をしながら、劇作『クノック』の中でマルセーユの波止場で「1700トンのインド行きの汽船で医者を求む。*学位学歴を問わず*」という広告をみておいそれと応じた、と結んでいる。ジュール・ロマンのつかんだ一如的集団気分がそそる笑いには、建設的なある働きが加わり、旺盛な生活力が笑いに加わっていた思いがある。その証拠には『クノック』はサン・モーリスの人気を独占したというから、フランス人はウイットの富んだ国民なのかもしれない。この話を昨今の新聞を賑わしたニセ医師問題とくらべると、時代の差はあるにせよ、笑いだけではすまされないものを感じる。加えて、耐震強度偽装問題に関与した一級建築士の偽装に端を発した諸々の疑問と比べて比較にならない豊かさを覚えるし、自ら湧きあがる笑いに重みがある。

一級建築士は何故一級なのかといえば、人命に係わる建物を扱うからだという。それなのに、耐震強度偽装問題にかかわったあやしげな人々は、人命を無視した利益追求に走った御仁としか言いようがない。また、建築基準法が厳しく改正される以前の建築物と、改正後に建てられたものとを同じ土俵で議論している風潮は理解に苦しむし、そのあたりの整理に手を染めずにいる人々の姿勢も理解できない。いま確実に言えることは、資格のある人は常にノーブレス・オブリージをもつべきだということでしかない。（2005.12.5記）

Building No. 6 Has Just Been Completed
Dr. Sachiho Naito, Chairman of Board of Trustees
A new six-storied building, called Building No. 6, for the College of Engineering was completed on February 24, 2006. It is located on the site where the Olive Open Space was between Building No. 8 and the main building of the College of Engineering on the Kanazawa Hakkei campus. The Topping Memorial Pond has also been made in front of the building. Topping is the name of an American missionary family that served many people at Kanto Gakuin and throughout Japan. One of those touched by the Topping's service was Mr. Kenji Miyazawa, a famous poet. A monument for the Toppings with Mr. Miyazawa's poem about the family is located in the pond.

関東学院創立125周年記念 事業計画について

常務理事(企画担当)
津田宏之

1884年に創設された横浜バプテスト神学校を第一の源流とする本学院は2009年(平成21年)に創立125周年を迎えます。創立100周年記念式典は1984年(昭和59年)10月6日(土)釜利谷校地(現金沢文庫キャンパス)において行われました。20年後の2004年は創立120年でした。この120年の創立記念式典は、関東学院中学校本館のテンネー礼拝堂で行なわれ、一貫教育検討会議（議長：松本昌子学院長）の発案のもと、「オール関東学院フェア」を創立記念週間にあわせて実施いたしました。この年は、大学の組織改革(法科大学院の開設・工学部の学科改組)とＫＧＵ関内メディアセンターが開設されたときでもあり、ひとつの節目として内外に学院の姿を発信する良い機会でした。

理事会では2005年度の事業計画に「125周年記念事業計画の策定」を掲げ、理事長を委員長とした常任理事会構成員による「関東学院125周年記念事業推進委員会」を設置しました。この推進委員会で、記念事業の骨格を検討した上で、今年度内に理事会に「関東学院創立125周年記念事業委員会」の設置を提案致します。

125周年記念事業では、『関東学院の新たな一歩に向けて』のスローガンの下、建学の精神に基づいた、教育事業のミッション(使命)を達成してまいります。

主要な記念事業は、「125周年記念学院史の編纂」・「学院資料室の開設」をはじめとして、「教育振興基金の充実」・「学院奨学基金の創設」・「社会貢献・国際交流事業の推進」・「各校教育改革・キャンパス整備事業」など、現在いくつかの事業を検討中です。これらの事業を達成するため、2006年度から、125周年記念事業委員会の下に募金実行委員会・学院史編纂委員会を設置することとしております。これら記念事業の計画は学院の将来像の方向を定めるものとなります。この意味において、この事業を、関東学院に連なるすべてのかたがたの力を結集し、新しい世紀の教育事業を展開する起点としていただきたいと願っています。

東京学院(1899.東京牛込左内町)

横浜バプテスト神学校(横浜山手75番)

Kanto Gakuin's 125th Anniversary Projects

Mr. Hiroyuki Tsuda, Executive Member of Board of Trustees in charge of projects, Professor of Architecture

For Kanto Gakuin's 125th Anniversary Project, we will achieve our mission of Educational Enterprise based upon the founding spirit with the slogan "Toward a new step of Kanto Gakuin".

The main projects under consideration are as follows: compiling Kanto Gakuin's historical material for a 125th commemorative publication, setting up an institute for Kanto Gakuin historical material, continuing an enrichment of the educational promotion fund, starting up a scholarship fund, making contributions to society, promoting international exchange projects, instituting educational reform at each school, and improving the classroom equipment used at the various campuses. In order to complete these projects, two sub-committees will be organized within the committee of the 125th Anniversary Project from the 2006 academic year.

社会に奉仕する学校法人

日露修好150周年記念の講演とシンポジウム開催
日露文化交流と教育の役割

学校法人関東学院主催、ロシア大使館、外務省、NHK横浜放送局、神奈川県、横浜市後援による、日露修好150周年記念の講演とシンポジウムが、2005年10月８日、大学金沢八景キャンパスのベネットホールにおいて600名の来場者を得て開催された。

第一部は松本昌子学院長による「横浜・ロシア・ドストエフスキィ」と題された記念講演から始まった。院長は、横浜とロシアをつなぐ媒体としてドストエフスキィがあり、その宗教観には文化や宗教の違いを超えて、真に人間とは何かという根源的な問いかけがあるとして具体的に作品を紹介。その後、会場は暗転。静ひつと暗がりの中から、灯がともり、天台声明（しょうみょう）の第一人者齊川文泰師による、深く豊かな声明が響きわたった。ややあって、声明と重なり合うように、女優牧三千子さんの芥川龍之介作『蜘蛛の糸』の朗読が始まった。声明と朗読の声は、ときに重なり、ときに離れ、独特の異空間を形成していた。

第二部は、「日露文化交流と国際交流における教育の役割」についてのシンポジウムであった。

「文化交流とは人と人との心のふれあい」、「日常的であると同時に国際的であること」、「食わず嫌い」では？　美女の国ロシア、光太夫の運命変えた一本の尺八、政治の砦から文化の砦、鮮烈だった「自由」の獲得、「昔はよかった」という郷愁、普通の人にもふりかかってきた大改革、文化は底力　ソフトパワーの輝き、相互理解には時間がかかる、大学が交流に果たす役割

これらは、2005年10月28日に全二面にわたって神奈川新聞に掲載されたシンポジウム抄録の全小見出しの一部である。紙幅が限られているのですべてを再録できないが、「大学が交流に果たす役割」について語られた５名のパネリストの言葉を抜粋引用して、このシンポジウム開催の意義をお伝えしたい。

初めて外国に行ったのは一九六三年でした。もし、あの時、大学がそういう機会を与えなかったら、これほどまで私が海外へ目を向けることはなかったと思います。留学ということだけでなく、文化交流に果たす大学の役割は大だと思います。伊藤　玄二郎（関東学院大学人間環境学部教授）兼司会

大学で出来ることは、学生たちに直に接触をするタネをまくことです。将来につなげるアイデアもそこから出てくることでしょう。（中略）大学が国際交流に果たす役割はこういう芽をのばしていくこと。小林　和男（元NHKモスクワ支局長）

若い時に外国に行くと、日本がよくわかります。（中略）言葉の基礎を勉強して留学することが必要です。なるべく視野を広げて、好奇心を持って、勉強を続けること。河東　哲夫（前在ウズベキスタン・タジキスタン特命全権大使）

日本にも留学生をもっと派遣したいし、日本からもロシアに留学生を派遣してください。学生交流を促進しましょう。ミハイル・Ｙ・ガルージン（駐日ロシア連邦大使館公使）

できるだけ多くの若い方に、外に出ていっていただきたいと思います。若いときの見聞は人生を豊かにします。海外というと多くの人がアメリカやヨーロッパを希望しますが、開発途上国での経験も等しく大切な異文化体験です。また社会もそういう人を評価していけるようでなければならない。近藤　誠一（外務省国際貿易・経済担当大使）

文化交流とは人と人との心のふれあい　日常的であると同時に国際的であること

Kanto Gakuin School Corporation's Contribution to Society through a Commemorative Lecture and Symposium Celebrating the 150th Anniversary of the Treaty of Amity between Japan and Russia

On October 8, 2005, a commemorative lecture and symposium celebrating the 150th anniversary of the Treaty of Amity between Japan and Russia was held under the auspices of Kanto Gakuin School's corporation, the Russian Embassy, Ministry of Foreign Affairs, NHK Broadcasting's Yokoyama Bureau, Kanagawa Prefecture and Yokohama City. An audience of approximately 600 people attended this event at Bennett Hall on the Kanazawa Hakkei Campus.

Ms. Masako Matsumoto, Chancellor of Kanto Gakuin gave a lecture titled "Yokohama, Russia and Dostoevsky".

Mr. Fumiyasu Saikawa, a Buddhist priest, chanted Tendai Sect Buddhist hymns. During his singing, Ms. Michiko Maki, an actress, read aloud A Spider's Thread written by Ryunosuke Akutagawa, a famous novelist.

The five panelists for the symposium were: Mr. M. Y. Garujin, Minister of the Russian Embassy in Japan, Mr. Tetsuo Kawato, the former Japanese Ambassador to Uzbekistan, Mr. Seiichi Kondo, Ambassador in charge of international trade and economy of Ministry of Foreign Affairs, Mr. Kazuo Kobayashi, the former head of the NHK branch in Moscow and Mr. Genjiro Ito, Professor of KGU.

コンテスト主催で社会に奉仕する大学

詩のコンテスト

二００四年から始めた「高校生の詩～伝えたいこの想い～」コンテストです。これは全国の高校生を対象に広く創作詩を募集する企画です。第２回は、北海道から沖縄までの全国三百三十二校に在籍する生徒さんから、第一回の千三百五十五篇を大きく上回る三千四百九十二篇（日本語部門三千三百七十篇・英語部門百二十二篇）の詩が寄せられた。

二００五年十月二十九日に大学十二号館で表彰式が挙行された。当日は受賞高校生十七名と団体賞受賞高校五校への表彰に続き、祝賀パーティーが行われ、受賞者の喜びの声が聞かれた。

エッセイコンテスト

二００五年から始めた「心にのこる最高の先生」エッセイコンテストです。これは全国の中学生から一般までを対象に創作エッセイを募集する企画です。初めてながら七百十名からのエッセイが寄せられました。中学生・高校生部門四百六十八名、一般（大学生を含む）部門二百四十二名でした。日本全国はもちろんアメリカ合衆国、英国、スペイン、ドイツ連邦共和国およびバングラディッシュ等、外国在住の方々からの応募もありました。この中には外国人の方々もいました。

二００五年十二月十七日に大学エテルニテ館で表彰式が挙行されました。当日は受賞者十八名と代理受賞者二名への表彰に続き、祝賀パーティーが行われ、受賞者の喜びの声が聞かれました。

KGU's Contribution to Society through Contests

In order to contribute to society, KGU holds two contests every year. One is the KGU Poetry Contest for senior high school students in Japan. The other is the Essay Contest with the theme: My Best Teacher (for junior high school students and above).

Ceremonies of commendation for the two contests were held on the Kanazawa Hakkei campus. The Poetry Contest's ceremony was held on October 5, and the Essay Contest's ceremony was held on December 17, 2005.

関東学院における役割

フロップ博士一家は、一九五八年一月に横浜港に入港し、初めに三春台キャンパスにあった宣教師館に住んでいる。現在、その場所は坂田記念館になっている。ご夫妻は、ただちに日本語研修を始めた。

この時期は、日本は、第一次岸内閣にあたる。テレビ受信契約数が百万台を突破、東京タワーが完成した年でもある。日本社会は、ようやく経済的に安定し、人々の心には、自尊心が取り戻され、戦中・戦後の傷痕を克服しつつあった。

関東学院は、一九四九年に新制大学を設立した。同時に基督（キリスト）教研究所を発足させた。これは戦前に閉鎖せざるをえなかった旧神学部の復活という悲願の実現であった。学生を経済学部に在籍させ、経済学専門科目を履修するかたわら、さらにキリスト教神学専門科目を受講させて、将来のキリスト教会教職者養成を行なってきた。その十年後の一九五九年に、その研究所を基盤にして、大学神学部を発足させた。

フロップ博士は、関東学院大学において本格的な神学教育を推進するために、アメリカ・バプテスト教会国際宣教部から派遣された。博士一家は、最初はビルマ（今日のミャンマー）に派遣されるものと考えていた。前回に、ベニンホフ博士の記事において紹介したように、当時のビルマは、アドナイラム・ジャドソン博士らの貢献により、すぐれたバプテスト系大学と国内の各地に多くの教会ができていた。

フロップ博士は、開設準備中の大学神学部の重要な教授陣に加わることになったのである。博士は、新進気鋭の学者として、この新しく開設された学部で、キリスト教会史、バプテスト史、バプテスト神学などを担当した。この分野における功績については、後に詳しく紹介しよう。

このほかに、博士は、経済学部と工学部の学生たちに、キリスト教概論を教えた。博士は、キリスト教にこれまで全く触れたことのない学生たちを愛し、彼らと真剣に対論することを楽しみにしていた。西欧のソクラテスやプラトン以来の対話の教授法を実践したわけである。

さらにフロップ博士は、自宅に学生を招いて、バイブル・クラスと交わりの会を開いていた。その会に出席していた学生は、博士の「誠実さにうたれます」と言い、「先生の魅力は口にだして表現することは難しい。それは僕が感じている魅力よりも、もっと深いものを持っておられるような気がするからです」と印象を述べている。

博士が直接関わった時期の関東学院は、日本社会と同じく復興期から成長期にあたる。一九六二年には、経済学部に経営学科が増設され、大学院神学研究科修士課程が開設された。一九六六年には、大学院修士課程に経済学・機械工学・工業化学各専攻が増設された。一九六八年には、文学部英米文学科・社会学科が設置された。また大学院博士課程（経済学史・社会経済史専攻）が設置された。

教室棟では、当時としては近代的な大教室を持つ四号館が一九五九年に竣工した。続いて、化学館、電気館が一九六一年に完成、工学館は一九六四年、七号館は一九六六年に竣工した。また文学部開設にともない一九六八年に旧第一号館が改築された。

ところが一九六六年頃から、各地で大学紛争が起こりつつあった。一九六八年には、東大医学部学生自治会が無期限ストに突入。安田講堂占拠が行なわれた。この年、本学の学生寮の青雲寮で原因不明だが出火し、二棟が焼失した。これをきっかけとして本学でも、大学紛争が起こった。一九六九年には、全共闘系学生が第一号館に乱入し、これを占拠した。このような状況の中で、神学部の学生の一部および三名の教員から、従来の神学教育に対する批判が

（本学神学部教授時代の博士）

関東学院の源流を探る 23

ロバート・E・フロップ博士

1926—

アメリカ・バプテスト宣教師／旧大学神学部教授／理事

在任当時の関東学院六浦キャンパス

Gakuin University first established the Institute of Christian Studies in 1949. The starting over of the theological education by the university was the long-cherished wish among the Baptist churches of Japan. And after ten years, in 1959, the college of theology was approved by the government at last. That year was the centennial of Protestant missions in Japan.

Dr. R. E. Fulop taught courses on Baptist theology and history and church history in the college and graduate school.

He made several contributions outside the lectures. Dr. and Mrs. Fulop welcomed college students at his residence and taught the Bible and maintained Christian fellowship every week. They also sponsored a ministers' meeting at his house and taught them recent development of the Baptist studies and established communications among Baptist ministers in

投げ掛けられ、教授会は内部分裂を克服できなかった。このため関東学院理事会は大学神学部の廃止を決定した。

理事会の見解は次のとおりである。「神学部が開設以来の存立の根拠としてきた点を自ら否定したこと。そして神学部教授会のその後の動向、および大学が現在直面している経営上の困難な状況を考えるとき、神学部を存続させることは不可能であります。」

フロップ博士は、神学部教授会の一員であり、しかも学校法人の理事として、この事態を憂慮し、和解につとめたが、この流れには如何ともし難かった。

一九七三年に三月末をもって、神学部と大学院神学研究科（修士・博士課程）が閉鎖された。

フロップ博士は、自分に託されていた使命が終ったと理解し、傷心のまま帰国の途についた。博士一家の日本在住期間、一九五八年から一九七三年は、関東学院大学神学部の誕生から終焉に、残念だがちょうど符合する。

紛争期のエピソードから

先日、日本での体験を綴ったニューズ・レターのコピーがフロップ博士から筆者に送られてきた。

大学紛争期に理事・教授として過激派学生との大衆団交に出席し、ある時には生命の危険にさらされたこともあり、博士は外国人としても不安な日々を過ごしていた。そのような中で心を温かくしてくれる二つの出来事があったという。

学生との団交が終って、本館に戻ろうとしたところ、全共闘派の学生が追い掛けてきた。この時、博士は自分は罵倒され、危害をうけるものと覚悟した。ところがその学生はこう言ったという。「団交に出席してくれてありがとう。先生には危害を加えません。これからも出席して欲しい。」

また車を運転していて、大学近くで赤信号のために停車した時、老婦人が博士の車に向かって走って来た。この時も、博士は殴られるのではないかと一瞬恐れた。ところが婦人は博士に深くお辞儀をしてこう言ったという。「過激な学生の言うことをすべて信じてはいけません。私たちはあなたたちを歓迎している隣人です。」

この期間のつらい悲しい出来事ばかりでなく、懐かしい思い出が、今でも博士の心には生き続けている。

来日まで

ロバート・アーネスト・フロップ博士は、一九二六年十月二十一日にイリノイ州シカゴ市に生れた。ご両親はハンガリー出身である。高校卒業後、一九四四年から四六年まで、徴兵されてアメリカ合衆国海軍で兵役に服した。第二次世界大戦末期から戦後にわたる時期になる。除隊後、一九四六年に中西部の名門ノースウエスタン大学に入学、一九五〇年に卒業し、バチェラー・オブ・サイエンスを取得している。大学卒業後、ノーザン・バプテスト神学大学院に入学し、一九五三年にバチェラー・オブ・ディヴィニティ（今日の神学修士）を取得した。

ノーザン・バプテスト神学大学院は、ジョン・マーヴィン・ディーンとシカゴ第二バプテスト教会が中心になって、一九一三年に設立された。既にバプテスト系のシカゴ大学神学部があったが、学問研究に重点を置いていたこと、自由主義神学の影響下にあったため、あらたに独自な教育を行なうことを目指して、この学校は設立された。今日、シカゴを中心とした周辺の諸州にあるバプテスト教会の牧師には、この学校の卒業生が多い。

現在は、この学校はロンバードにある。ここはシカゴ市の西約三十キロメートルの郊外に位置している。

この神学大学院の特色は、いくつかのヨーロッパ系移民の神学校を併合してできたこともあるので、多様な人種的・文化的な背景の人たちをも受け入れてきている。教育方針は、人格的に円満で、霊的に成熟した、聖書にしっかりと土台をおいた、神学的に有能なキリスト教の指導者を養成することであった。フロップ博士を知る人は、博士がこの教育が生み出したまことに模範的な人物である、とうなずくことであろう。

本学と交流のあるジャドソン・カレッジは、もともとこのノーザン・バプテスト神学大学院から学部部門を独立させて、できたものである。このほうはシカゴ市の北西六十キロメートルに位置するエルジンにある。

この神学大学院卒業後、博士はスコットランドのエディンバラ大学ニューカレッジにて研究を重ね、一九五六年にドクター・オブ・フィロソフィーを取得している。博士号取得論文テーマは「ジョン・フリスとイングランド宗教改革の起源」である。

ジョン・フリス（一五〇三―一五三三）はまことに短い生涯を送った改革者であったので、日本ではほとんど知られていない。ここで少し紹介しておきたい。

フリスは英国のイートン校とオックスフォードのキングス・カレッジに学んだ。

当時危険思想とされていたルターの宗教改革を研究する秘密グループに加わり、フリスはやがてカトリックの伝統的な教義に疑いを持つにいたった。彼はカレッジの一つであるクライスト・チャーチのフェロー（研究員）になった。さらに先駆的な改革者ティンダルと知り合い、彼の改革思想に共鳴し、ルターの宗教改革思想を大胆に説いたために、フリスは異端思想の支持者の嫌疑がかけられた。一時期、ヨーロッパ大陸に逃れ、ティンダルが企てた聖書の英語への翻訳に協力、『キリスト者読者への手紙』『煉獄否定論』を著作した。一五三二年には帰国したが、カトリックの化体説や煉獄を否定したために、フリスは一五三三年に異端として焚刑に処せられた。

フロップご夫妻近影

Dr. Robert E. Fulop … Missionary. Professor and Trustee of Kanto Gakuin …

Dr. R. E. Fulop was sent to Japan in 1958 by the American Baptist Churches, U. S. A. as a professor at the college of theology which opened in 1959 in Kanto Gakuin University. The predecessor of Kanto Gakuin School System was Yokohama Baptist Theological Seminary which started in Yokohama in 1884. They had maintained the department of theology ever since. But they had to close it under the fascistic government in 1940. During World War II under the government policy, Japanese Baptist Churches were incorporated into the United Church of Christ of Japan and their ministerial candidates were sent to its theological schools.

After World War II, under the Japan's democratic government, Kanto

研究者・教育者として

フロップ博士は、既に記したように関東学院大学神学部および大学院の教授として、一九五八年から一九七三年までその任についていた。その間、一九六二年―六三年、母校のノーザン・バプテスト神学大学院で宣教学客員教授をつとめた。また一九六七年には、ハンガリア・バプテスト神学大学院において講師として教えた。また日本から帰国後は、一九七三年―七四年、キャンサス州キャンサス市にあるセントラル・バプテスト神学大学院の宣教学客員教授となった。その後、一九七四年―七六年には、同校の教会史および宣教学の准教授。一九七六年―一九九九年には、同校教授をつとめた。同校では、二十五年にわたって研究と教育にあたったことになる。

このほかに、一九八一年にはミズーリー河流域歴史学会の講師、一九八五年には日本バプテスト宣教研修所で集中講義、一九九二年には、日本バプテスト神学校で集中講義、母校のノーザン・バプテスト神学大学院で講義を行なっている。

主な学会での活動は、日本組織神学会、アメリカ歴史学会、アメリカ宣教学会、英国バプテスト歴史学会、国際宣教学会、アメリカ宗教改革学会、アメリカ福音的宣教学会などに属して、研究活動を行ってきた。またアメリカ宣教学教授協会の中西部地域部会会長（一九七九―八一年）、歴史研究委員会グレート・リヴァー流域部会会長（一九九一―九六年）の重責を担った。

研究業績としては、日本においては、英文誌『ジャパン・クリスチャン・イヤー・ブック』『ジャパン・クリスチャン・クオータリー』などに執筆している。

本学神学部が発行していた紀要『聖書と神学』には、次のものがある。

一九六〇年
「宗教改革の妥当性」（第五号）
一九六五年
「バプテストの起源」（第九号）
一九六六年
「世界教会運動とバプテスト」（第十号）
一九六七年
「主の晩餐についてのバプテストの思想と実践」（第十一号）
一九六八年
「初期英国宗教改革に与えたルターの影響」（第十二号）

一九九八年には、Changes and Challenges「時代の変化と挑戦に応える」というタイトルで、二十一世紀におけるキリスト教会の使命と課題を扱った論文を共著 Central Thoughts on the Church in the 21st Century (Smyth & Helwys) に執筆している。

この論文は、本学院とアメリカ・バプテストの歴史的な関係および今日の事情を理解するために役立つであろう。要約を紹介しておこう。

欧米以外の地域におけるキリスト教の拡大が、二十世紀における著しい事実であった。第二次大戦後、多数の宣教師が世界各地に派遣された。こうして多くの教会や教育施設がつくられた。しかし一九六〇年代以後、宣教の責任を現地の教会に委ねるという流れになった。むしろ最近では、第三世界が多くの宣教師を世界各地に派遣している。彼らの宣教の熱意が、西欧キリスト教に肩を並べるほどになっている。

二一世紀の宣教は、キリスト教会全体の課題である。グローバル化の時代においては、世界宣教のために、献金を捧げ、宣教師として出掛けるばかりではない。海外からの留学生を喜んで受け入れ、世話することも、宣教に関わっているのである。彼らは、やがて帰国後、その国の指導者になっていく。またさまざまな文化と宗教を背景にした人たちが、移住してくる時代である。彼らを心から受け入れることが、キリストを証しすることとなる。神は彼らを私たちの隣人として送り込んでおられる、と論じている。

海外宣教への情熱

フロップ博士ご夫妻は、宣教師・教育者として来日して、十五年間、関東学院を拠点として、日本の宣教と教育のために、若き日を捧げた。ヴァーネット夫人も、イリノイ州の名門ホィートン大学で看護学を学び、シカゴの病院付属看護師養成所で教えた経歴の持ち主である。夫人も、関東学院女子短期大学で、英語を教え、女子短期大学の確立と発展の時期に貢献した。

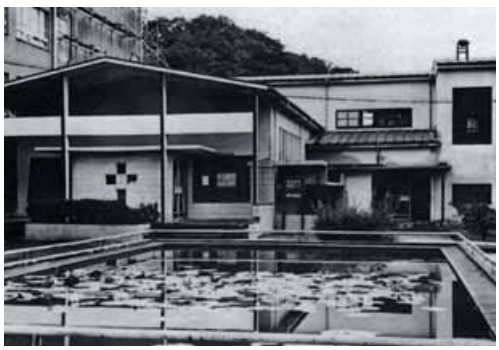
このようなご夫妻の経験は、帰国後も生かされている。フロップ博士は、セントラル・バプテスト神学大学院で、アジアとヨーロッパの事情にも通じている宣教学者として講義を担当された。このほかに、同神学大学院の主催する世界宣教週間の企画と運営に二十六年間たずさわった。このイベントは、学内だけでなく、中西部の広大な諸州の諸教会を廻って、世界宣教について情報提供と学習をするものである。これは相当に強硬スケジュールであるが、博士はこれを率先してこれにあたった。

さらに博士は、海外派遣宣教師が帰国したときには、学内に滞在していただき、現地事情についての講義と学生との交流のプログラムを調整・運営をしてきた。

また、博士は、宣教学教授として、十六年間、学生たちをメキシコの宣教現場に引率し、研修活動を指導した。同神学大学在任中、博士は宣教学教授として、十二名の学生を海外宣教実習に送り出し、七名の学生を国内短期宣教実習に派遣して、彼らの指導にあたった。さらに十五名の卒業生を外国宣教師として送り出した。また同神学大学院には、博士から宣教学を学ぶために、プロテスタント他教派からも学生が集まっている。

それだけでなく、海外からの留学生を意欲的に受け入れ、博士は積極的にその面倒を見てきた。関東学院大学の卒業生の中にも、同神学大学院に留学した者が多い。

さらに博士はアメリカ・バプテス



旧神学部校舎と旧タッピング・ポンド

because his task in Japan finished.

Dr. Fulop was born in Chicago, Illinois. He studied in Northwestern University and Northern Baptist Theological Seminary. He received a Ph. D. from the University of Edingburgh, Scotland. Dr. Fulop was a pastor of the First Baptist Church, Appleton, Wisconsin 1955-1957. And then Dr. Fulop and his family lived in Japan for fifteen years. This term corresponded with the existence of the college of theology in the Kanto Gakuin University. After his return to the U. S. A. in 1973, he was professor of church history and missiology at Central Baptist Theological Seminary, Kansas City, Kansas until his retirement in 1999.

ト夏季研修施設、グリーン・レーク・アッセンブリーにおいては、十五年間にわたり、海外宣教について講義した。

このような活動から見ても、博士が若き日に抱いた宣教への熱意の燃える火を絶やすことなく、学生を指導し、一般の人々の啓発につとめてきたことがわかる。そして特に関東学院に対しては関心を持ち続け、そのための祈り、関東学院の紹介につとめてこられた。

日本におけるバプテスト研究への貢献

フロップ博士は、本学在職中に、大学神学部および大学院神学研究科において、バプテストの歴史と思想を講義して、学生を指導したことはすでに記した。また神学部の紀要『聖書と神学』にバプテストの歴史と思想について執筆している。さらに自宅を開放してバプテスト教職者の会を主宰し、精力的にバプテスト研究の指導を行なってきた。

日本における学問的なバプテスト研究の啓発者として、博士の活動は高く評価されている。その功績については、拙著『近代バプテスト派研究』において紹介しているが、これは絶版になっているので、その一部をここに再録しておこう。

「今日までの学的研究の成果をふまえたバプテスト史研究を、日本に初めて紹介した学者は、R・E・フロップ教授であろう。先生は関東学院大学で教会史およびバプテスト史を教えられた。とくにバプテスト派の起源については、先生は『バプテストの起源』という論文を書いておられる。これは日本のバプテストの伝統を継承している人々に対して、これまでの思い違いを訂正し、自分たちの歴史について学的にも妥当な見方を、啓蒙しようと意図したものである。…バプテスト派は［英国］国教会から離脱したが、自分たちの教会が、新約聖書の時代から近代に至るまで連続性を持つ、と主張したのであった。そのために、キリスト教会のすべての歴史の中で自分たちの主張に近い分派を探し出して、初代から今日まで連綿とした線を描きだそうとした。これはランドマーキズムと呼ばれるものである。しかしこの企ては、歴史的吟味に耐えることはできない…ここでは、私たちはトレルチの業績から学ばねばならない。彼はキリスト教思想を教会（キルヘ）型と分派（ゼクテ）型と神秘主義型に分類する。これまでのバプテストの歴史家が犯した誤りは、歴史の中の分派を先駆的なバプテストの流れとして取り入れていることである。

フロップ論文によって、これまでの歴史研究の中で見られた立場を整理しておくと、第一に連続説および精神的類似説がある。これらの主張するところによれば、バプテスト派が新約聖書時代から文字どおり、あるいは精神的に断絶することなく続いてきたとする。これは歴史的事実を検討してみれば、正当でないことが分かる。第二の立場は、イングランド・ピューリタン分離派説である。歴史的な事実によって、イングランド・ピューリタン分離派から出たスマイス＝ヘルウィズ教会が近代バプテスト教会の起源であると、確証できる。…第三は、アナバプテスト派説である。確かにピューリタン分離派は、イングランドのアナバプテスト派がもっとも勢力を持っていた地域から現われている。しかし初代バプテストのスマイスらが直接にアナバプテスト派に関係したのは、オランダにおいてである。しかもアナバプテスト派とバプテスト派とは、社会に対する姿勢において、決定的に立場を異にする。

フロップ論文は次のように結論する。ジョン・スマイスと彼の教会がバプテスト教会の起源である。この点では歴史家の間で一致を見ている。…いずれにせよ、バプテスト派がスイスにおける宗教改革に水源を見出すところのプロテスタント・キリスト教の流れに属していることは明確である、と。」

フロップ博士は、このような論文および講義において、バプテスト派内部の指導者たちを啓発したばかりでなく、バプテスト派がヨーロッパ大陸に現れたアナバプテスト（再洗礼派）に由来すると理解する、外部の学者たちの誤解をも正そうとつとめられた。

「人になれ、奉仕せよ」について

フロップ博士は、校訓「人になれ、奉仕せよ」の説明を『告知版』（一九六七年七月号）に寄稿している。今日の学生にも、示唆的であるので紹介しておこう。

「学生は、学問をするために大学に入るというのは、わかりきったことである。大学生活の目的は、知識を獲得し、経験を積むことである。これによって、将来、責任ある立場を引き受けることができる。大学にいる間に、友人仲間と有能な教師たちから感化を受けるであろう。このような経験を通し、学生は人間として成熟する。それは使徒パウロが告げる『全き人となる』ことである（エフェソ四・一三）。

『全き人となる』には、勤勉でなければならない。自ら努力し、精進しなければ、人生と職業をめぐる諸問題を、解決できる能力を身に着けることができない。また課題がどんなに困難であろうと、それに打ち勝つ精神を、大学時代に身に着けなければ、将来、重い責任を担うに十分な経験を積んだことにならない。

勤勉は犠牲を伴う。頭の中にコンピュータを据えて置けば、すべてがうまくいくだろうか。数学の問題を解いたり、歴史資料を収集するような、手間のかかる作業は、省けるであろう。たしかに私たちのために機械が多くのことをやってくれるであろう。しかし私たちにはなすべき課題がなお残る。それには、努力と頑張りが求められている。さらに時間も、自分自身の心も捧げなければならない。

目的のために犠牲を払わなければならない。人間には生きる目的が必要である。生き続けるために、食べなければならない。そのようなささやかな目的もある。アーティスト、ミュージシャン、科学者として、世界に知られるようになりたいという大きな目的もあろう。しかもそのような高次の目標を達成しても、多くの人たちは、心が満たされていない。使徒パウロは人生の奥義に通じていた。彼によれば、真の神を知り、奉仕することが、人生の根本的な目的である。そして、そこに、生きる真の価値を見出すことになるばかりでなく、人間としての完成がある。」

（学院宗教主任／経済学部教授　高野進）

Japan.

Dr. R. E. Fulop was the academic promoter of Baptist studies in Japan. He made an important contribution in this field teaching in the college of theology and ministers' gathering. His articles on the Baptist history and practices were influential among the Baptists in Japan.

In 1969 the board of trustees of Kanto Gakuin decided to close the college of theology and its graduate course. The cause of its unhappy decision was the dissociation among the faculty of the college of theology. Some professors were sympathizers of the revolting students. Dr. R. E. Fulop was in a great sorrow over the decision because he was a faculty member and a trustee member at the same time. In 1973, the college of theology and its graduate school were finally closed. Dr. Fulop returned to the U. S. A.

まだよく分かりませんが、「ものすごく自由なもの」だと思っています

吉原先生　昨日は福岡で、そして明日は横浜でのコンサートと多忙の中、インタビューに応じてくださりありがとうございます。また昨年度の大学祭での公演、本当にありがとうございました。学生たちや、中高の生徒も来てくれて、皆、大喜びでした。伊地知さんと関東学院との出合いからお聞きしましょう。

伊地知さん　三春台の中学校です。それから高校そして大学と10年間、関東学院でした。

吉原先生　中学時代の思い出は。

伊地知さん　はい、中学3年のときにマーチングバンド全国大会に出場して2位になったことです。日本のマーチングバンドの草分け的存在だった広岡穣先生の厳しい指導を受けました。トランペットやフルートなど色々の楽器があるのですが、一番重要だと言われた小太鼓スネアをやりました。部員は約100名いて、ものすごく練習しました。そのお蔭で、今のプレイスタイルがあると思っています。そうとう影響を受けていますね。ですから、広岡先生には感謝しています。

吉原先生　高校生のときも続けたのですか。

伊地知さん　いいえ。マーチングバンドは、マラソンや筋肉トレーニングしたり、本当に厳しくて、反抗期だったこともあり中3で辞めました。高校1年のとき、卒業生からの働きかけもあり、2～3年間、部員が0人だったヨット部を一人で始め、復活させました。一人ですからもちろん部長です。(笑)同時に空手部にも籍をおいていました。高校生のときはクラブ活動まっしぐらでしたね。

吉原先生　ドラムはいつから始めたのですか。

伊地知さん　高校2年からです。かんらん祭(文化祭)が発表の場で、ボン・ジョビなどハードロック系の曲が好きで演奏していました。

吉原先生　それから大学に入学してすぐに軽音楽研究部(軽音)に入って、今のアジカン・メンバーである、喜多さん、後藤さんそして山田さんに出会ったのですか。

伊地知さん　いいえ、1年生のときはテニスの同好会に入ったりしてチャラチャラしていました。でも2年生のときにヨット部と音楽サークルかどちらかに入ろうか迷っていたのです。軽音に先に見学に行って入部を決めました。ですから、あのとき軽音に先に行かずに彼らに出会わなかったら、今のアジカンはないということですね。

建学の精神を生きる

OBに聞く

アジカン(ASIAN KUNG-FU GENERATION)ドラマー

伊地知 潔さんインタビュー

吉原先生　大学時代は楽しかったですか。

伊地知さん　軽音のメンバーだけでなく、他の音楽サークル、たとえばハワイアンとかと演奏したりして、楽しかったですね。

吉原先生　大学卒業後、音楽で食べて行くつもりだったのですか。

伊地知さん　趣味としてやって行ければいいと思っていましたので、メンバー全員就職しました。僕は、影山俊文先生(工学部工業化学科)の研究室でクロマトグラフについての卒業研究をしました。入社した会社でも全く同じ研究分野の製品を営業販売していたので、すぐに役に立ちましたね。2年間働きましたが、退職しようとしたとき、社長さんたちから反対されました。「武道館でコンサートをやれるんなら辞めてもいいよ。」って言われました。その後、それを実現できたときは嬉しかったですね。会社を辞めてから1年間は、フリーターをしながら、活動していましたが、毎食、自分で握ったおにぎりを食べるような辛い1年でした。でもその後、インディーズでのデビューが決まり、メジャーデビューし、CDを出してからは、トントン拍子でした。まさかこんなにがんばれるとは思わなかった。

吉原先生　作詞、作曲はだれがやっているのですか。

伊地知さん　作詞は後藤ですが、アレンジは4人で行っています。だれか一人が基のアイデアを持ってきて、それをみんなでいろいろ意見を出し合ってすべて試すんです。結構これがたいへんな作業なんです。

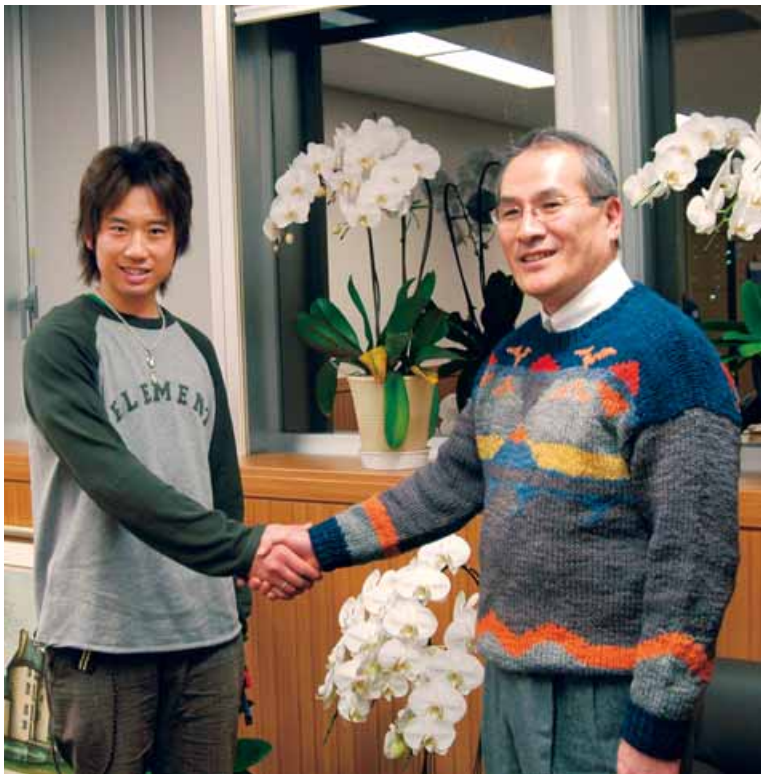
吉原先生　最近は外国のグループとの共演が多いですね。

伊地知さん　メンバー全員が洋楽大

came to campus to teach his juniors how to play the drums. Mr. Ijichi said, "I just like my juniors in school." Mr. Ijichi, when asked what was rock music for him, replied, "Rock is something extremely free for me."

Mr. Ijichi also said that he was a Christian and was eager to attend worship on Christmas. He also said he felt that God was always watching over him.

INTERVIEW



好きですから、共演するのが楽しいですね。僕はアメリカのバンドの方が好きですが、他のメンバーからイギリスのバンドも紹介されて、最近は好きになってきました。

吉原先生　ツアーは多いんですか。

伊地知さん　今年は前期と後期と2回ありますが、1回のツアーは約40本くらいライブがあるので、マラソン大会のように大変です。それにツアーばかりだと作曲活動にも支障をきたすので、やれない月もあります。

吉原先生　伊地知さんにとって、「ロック」とはどういうものですか。

伊地知さん　まだよく分かりませんが、「ものすごく自由なもの」だと思っています。

吉原先生　伊地知さんを見ていて偉いなと思うのは、今でも大学にちょくちょく来て後輩にドラムを教えてくれていますよね。

伊地知さん　後輩の世話をやくのが好きなだけですよ。エアコンも付いていて、今の練習場はすばらしいですね。後輩にはオリジナルバンドを作ってどんどんメジャーデビューして欲しいですね。

吉原先生　他に関東学院で学んでよかったことはありますか。

伊地知さん　僕はクリスチャンで、小学校からキリスト教を学んでいたので、キリスト教関係の授業の成績がよかったことですか。(笑)クリスマスのときなどに礼拝に行きたくなりますね。いつも神様に見られているという感覚があります。

吉原先生　伊地知さんとは、学生時代から芝居を観に行ったり、親しくしてきましたが、今のお話を伺って、伊地知さんが本当に優しい性格の持ち主で、後輩のために指導に来てくれていることの理由がようやく分かりました。みなさんの活躍は、関東学院の学生、生徒にとって誇りです。これからもより一層のご活躍を期待しています。本日はありがとうございました。

インタビュー◎吉原高志（大学学生生活部長、工学部教授）
写真◎瀬沼達也

（このインタビューは、12月27日（火）の夕方に学長室で行われた。）

伊地知　潔(いぢち・きよし)さんプロフィール

1977年9月25日、神奈川県生まれ。
1989年　関東学院中学校高等学校入学
1992年　同校卒業。関東学院大学入学
1993年　大学の音楽サークル「軽音楽研究部(軽音)」ASIAN KUNG-FU GENERATIONを結成。全英語詩によるオリジナル曲で校内、地元横浜を中心にライブを行う。
1996年　同大学工学部工業化学科卒業
2002年　インディーズから「崩壊アンプリファー」リリース。ハイラインレコード連週1位をはじめ、オリコンインディーズチャート35位を記録。
2003年　メジャーレコード会社より「崩壊アンプリファー」再リリース。シングル「未来の破片」「君という花」に続き、ファースト・フル・アルバム「君繋ファイブエム」リリース。FUJI ROCK FESTIVAL '03「ROOKIE A GO GO」、SUMMER SONIC '03　東京・大阪に出演。
2004年　シングル「サイレン」と「ループ&ループ」を二カ月連続リリース。初ワンマン・ツアー「five nano seconds」敢行。全公演瞬間売切れ。自主企画イベント"NANO-MUGEN FES"を日本武道館で開催。MEET THE WORLD BEAT、FUJI ROCK FESTIVAL、ROCK IN JAPAN FES. など10以上の全国各地のフェスティバルに出演。シングル「リライト」と「君の街まで」をリリース。セカンド・アルバム「ソルファ」リリース、アルバム・チャート2週連続1位を記録。初の日本武道館ワンマンを含む全国ツアー「Tour酔杯(SUI CUP) 2004～ No! Member, November」を行う。全国38都市48公演「Tour 2005 "Re:Re:"」を行う。自主企画イベント：ASIAN KUNG-FU GENERATION presents "NANO-MUGEN FES. 2005"を7月9日に横浜アリーナにて開催。ASIAN KUNG-FU GENERATIONを含む日本4バンド、UK 4バンドの計8バンドが出演、さらに2ステージ制を導入。また、この8バンドの楽曲を収録したフェス連動コンピレーションCD『NANO-MUGEN COMPILATION』もリリース。ASIAN KUNG-FU GENERATION 新曲「ブラックアウト」を収録。
2005年　SUMMER SONIC 05(東京&大阪)、ROCK IN JAPAN FES. 05、RISING SUN ROCK FES.2005のメインステージに出演。そして同年11月シングル「ブルートレイン」を発売。2006年2月シングル「ワールドアパート」は初のオリコンシングルチャート第1位を獲得。3月15日3枚目となるアルバム「ファンクラブ」がリリースとなる。

Album「ファンクラブ」KSCL 945/キューンレコード

Single「ワールドアパート」KSCL 934/キューンレコード

I Just Like My Juniors In School
Rock Is Something Extremely Free For Me

Mr. Kiyoshi Ijichi is the drummer of ASIAN KUNG-FU GENERATION, one of the most popular rock groups in Japan. Mr. Ijichi is a graduate of Kanto Gakuin University and majored in Industrial Chemical Engineering. Upon graduation, he was employed by an industrial chemical engineering company.

Mr. Ijichi belonged to Kanto Gakuin Junior and Senior High School's Marching Band Club for three years. When he was a 9th grader, the band won second prize in the All Japan Marching Band & Baton Twirling Contest. During that time, he played the snare drum and was trained by Mr. Minoru Hirooka, a pioneer of marching bands in Japan. Mr. Ijichi's druming style was influenced by the drum techniques he learned while in the marching band.

Mr. Ijichi was a member of the light music club during his sophomore year and met Mr. Kita, Mr. Goto and Mr. Yamada who are the other members of ASIAN KUNG-FU GENERATION.

Professor Takashi Yoshihara, Dean of Student Affairs was very appreciative that Mr. Ijichi sometimes

分野	発明の名称とその概要	学部／学科・発明者	共同出願
表面工学	**プリント配線板上のバンプ形成方法** プリント配線板の配線パターン上に複数のバンプを一括して形成する簡易な方法	工学部／物質生命科学科 本間　英夫 柳沢　英夫 石田　卓也 菊川　祐介	関東化成工業(株) 本間　英夫
化学装置	**高濃度酸素発生装置** 空気中からPSA装置を用いて酸素を濃縮する装置にアルゴンを吸着分離する吸着剤を装備した装置を付設して99.5%以上の酸素ガスを得る。	工学部／物質生命科学科 香川　詔士　　鈴木　謙一郎 鈴木　芳行　　下山　好 高橋　満	(株)星医療酸器
環境工学	**吸殻を主原料とする活性炭の製造方法** 吸殻を自己賦活法によって炭化・賦活するメソ孔主体の活性炭が得られ、脱臭・脱VOC用吸着剤として利用できる。	工学部／物質生命科学科 香川　詔士 和田　政利	(株)あんぜん食品
建築設備	**氷蓄熱式熱源システム** 開放型氷蓄熱槽を用いて密閉回路で負荷側へ氷水搬送するシステム、搬送動力の大幅削減が可能	工学部／機械工学科 神谷　是行	大成建設(株)
	接続補強具及び該接続補強具を用いた吊り下げ装置 ダクトや配管等を接続しシステムを構成させる際に用いる部材間の接続装置としての機能と天井部からの吊り下げ機能を有する金具類に関して、従来ダクト類の接続部の外周に設置する固定バンドを、接続部にダクト内への挿入金具を用いたために省略でき美観上の工夫を行ったこと、同時にその金具と一体化した吊り下げ部材である。	工学部／建築学科 湯澤　正信 大塚　雅之 安孫子　義彦 荒川　裕治	関東学院大学 (株)ジェス ニチヤスウレタン(株)
	熱交換用既製杭の設置方法、熱交換用既製杭の造成方法及び底部用既製杭 建物の建設に用いる既製杭に空調設備用の熱冷媒の供給ならびに取り出し用に装着させた熱交換用配管の施工方法、杭への固定支持材と固定法に関するもので、従来関連特許の多くが現場打ち杭であるのに対し既製杭を利用した工法であり、杭打ち込み時のパイプ破損を防ぐ防止金具を設置している。	工学部／建築学科 大塚　雅之 湯澤　正信 飯塚　宏 深尾　仁 関根　賢太郎 新村　浩一	関東学院大学 (株)日建設計 大成建設(株) 三機工業(株)
建築構造	**鉄筋コンクリート柱の補強構造とそれを用いる補強材** 既存のピロティ・タイプの鉄筋コンクリート柱の周辺を鋼板と連続繊維シートによって巻き立て、柱と鋼板の間にグラウト材を充填することによって耐震補強を施す。	工学部／建築学科 槇谷　榮次	SPAC工法研究会 SPACコンストラクション(株)
	壁付き柱の補強構造 既存の耐震壁が取り付いた鉄筋コンクリート柱の周辺と壁の一部に鋼板と連続繊維シートによって巻き立て、柱と鋼板の間にグラウト材を充填することによって耐震補強を施す。	工学部／建築学科 槇谷　榮次	SPAC工法研究会 SPACコンストラクション(株)

関東学院大学技術開発の実績

分野	発明の名称とその概要	学部／学科・発明者	共同出願
食品	**焼き菓子用改質材及び焼き菓子** ビスケットなど焼き菓子の口溶け、ライト感を向上させることができる特定成分からなる焼き菓子用改質材及びそれを用いた焼き菓子	**人間環境学部／健康栄養学科** 和田　淑子 倉賀野　妙子 秋山　真 松本　隆志 甫立　善明	日本油脂(株)
医学食品	**細菌検査用用具** 大腸菌や大腸菌群試験等における簡便且つ高感度迅速検査を可能にした高圧ガス検知管（Tunoda tube）	**人間環境学部／健康栄養学科** 角田　光淳	栄研器機(株)
バイオ	**Bacillus mojavensis に属するか又は近縁である細菌及びそれを含むカビ防除剤** 土壌由来の堆肥から分離したBacillus mojavensis に属するか又は近縁の細菌はほとんど全ての糸状菌の成長を阻害する。植物病原菌、人間に感染する又は環境を汚染する糸状菌の防御に応用可能である。	**工学部／物質生命科学科** 村山　肇子 川上　純一	(株)カナガワファニチュア
	寒天分解能を有する新規微生物及びその用途 寒天は細菌による分解を受けにくい多糖類の一つである。これを分解できる新しい細菌が分離された。この細菌は難分解性のもう一つの多糖類セルロースをも分解する。	**工学部／物質生命科学科** 村山　肇子 近藤　久恵	(株)カナガワファニチュア
生命科学	**スフィンゴ糖脂質** α-グルコサミンとβ-グルコサミンを含む糖鎖を有するスフィンゴ糖脂質の化粧品及び医薬品としての用途の提供	**工学部／物質生命科学科** 川原　一芳 村田　克巳	(株)紀文フードケミファ (社)法人北里研究所
	分解方法、浄化方法及び分解菌 Nocardioides 属の菌を添加し、栄養源と酸素を供給することにより汚染地域の生物難分解性化合物を分解し、浄化する。	**工学部／物質生命科学科** 川原　一芳 長谷部　吉昭 平石　明 江口　正浩	オルガノ(株) (社)法人北里研究所 平石　明
半導体メモリ	**プラズマディスプレイ** スクリーンと印刷法における厚膜の研究	**工学部／物質生命科学科** 小岩　一郎　他、多数	沖電気工業(株) 東京応化工業(株) 早稲田大学
	ゾルゲル法を用いた強誘電体メモリ用の強誘電体メモリの実用化 ゾルゲル法により作製した強誘電体膜を用いて混載メモリを作製して実用化した。	**工学部／物質生命科学科** 小岩　一郎、他、多数	沖電気工業(株) 東京応化工業(株) 早稲田大学
表面工学	**ビアホール及びスルーホールを有する基板のめっき方法** ビアホール及びスルーホールが混在する基板に対して効率よくビアフィリングを形成し、スルーホール内に均一に金属を析出する。	**工学部／物質生命科学科** 本間　英夫 三浦　修平 小山田　仁子	荏原ユジライト(株) 本間　英夫

List of Kanto Gakuin University's Record of Technical Development

Fields of Study

Food, Medical Food, Biologics, Life Science, Semiconductor Memory, Surface Engineering, Chemical Devices, Environmental Engineering, Architectural Equipment and Architectural Structure

▲力強くゲインするFL北川忠資君

◀北川智規君のトライ後盛り上がるサポーター

◀敵ボールを奪い、華麗なステップをきりながら、90m独走トライへ向かうWTB北川智規君

▶健闘するフォワード

▲OB淵上宗志氏と対決するSO藤井亮太君

▲社会人相手に空中戦も互格にボール獲得

最近の決勝記録

年度	優勝	スコア	準優勝
1997	関東学院大	30-17	明　大
1998	関東学院大	47-28	明　大
1999	慶　大	27- 7	関東学院大
2000	関東学院大	42-15	法　大
2001	関東学院大	21-16	早　大
2002	早　大	27-22	関東学院大
2003	関東学院大	33- 7	早　大
2004	早　大	31-19	関東学院大
2005	早　大	41- 5	関東学院大

に鮮烈な個性を持った主将が存在したことで、よりグラウンドは熱を帯びた。決勝後の表彰式、オーロラビジョンに映し出されたあふれる涙は、しっかりと大学ラグビーの歴史に刻み込まれた。ほぼ2シーズン、チームの先頭に立って仲間を鼓舞し続けた背番号15が挑戦の日々を振り返る。

大学選手権。関東学院大が走り出す。「おれを信じろ！」と主将は檄を飛ばした。ついに9年連続の決勝へ。「もう有言実行しかなかったんです。自分にプレッシャーをかけ、やらないといけないだろうって」

「関東学院大のよさは。」と松瀬学氏が訊くと、有賀君はこう答えた。「結構、自由にやらせてくれる。型にはめない。だから、みんな社会人になって、のびるんじゃないですか。」「もう感謝しています。結局は春口さんの指導法がいいと思うんです」

2年間のリーダー経験は貴重だっただろう。少年から大人へ、その成長を促したはずだ。「人として、リーダーとして、筋が通っていないといけない。大事なものは「信念」です。筋が通っていない人はキライなんです、はい」

新たなターゲットを聞くと、すーっと笑顔が消える。ゴウが吼える。

「日本一。そして、やっぱりワールドカップ、2007年です。ある意味、社会人1年目がショウブですね」

もう涙は涸れた。悔しさを骨に刻んだ。

反骨もんの挑戦は終わらない。　（松瀬　学）

関東学院の9年連続決勝進出の事実は最大限に称えられなくてはならない。そのうえで、さらなる発展は、好敵手（早稲田）が取り組んできた「球技としてのラグビー」にこそ求められるのではないか。ほれぼれするランニング能力を携えたバックスは、いまのところターンオーバーなどからのカウンター攻撃と、FWが前へ出たあとの仕留めの機能を担うにとどまっている。劣勢についての活路を見出せなかった要因だ。どうか「先にバックスで仕掛ける」域をめざしてほしい。おおげさでなく日本ラグビーの進歩にもつながるのだから。

激しく巧みな接点。強靭な肉体。正確なラインアウト。好機にあわてぬバックス。早稲田の示した美点の多くは、ここ10年の関東学院の長所でもあった。誇るべき事実だ。　（藤島　大）

文責・写真◎瀬沼達也

執筆というより編集と表現した方がよい記事となった。引用させていただいた各記者と㈱ベースボール・マガジン社に感謝申しあげる。

大学選手権決勝レギュラーメンバー

氏名	（高校・学年・学部）	ポジション	身長	体重
林　時光	（大阪工大④人）	ＰＲ	168	99
田中貴士	（大阪工大③経）	ＨＯ	175	103
笹倉康義	（向上④経）	ＰＲ	180	120
三根秀敏	（佐賀工④経）	ＬＯ	187	105
北川勇次	（大阪桐蔭①経）	ＬＯ	194	105
北川忠資	（東山④経）	ＦＬ	178	93
阪元弘幸	（佐土原④人）	ＦＬ	175	87
土佐　誠	（尾道①経）	No.8	187	100
吉田正明	（大阪工大③経）	ＳＨ	164	67
藤井亮太	（佐賀工③経）	ＳＯ	166	78
小柳泰貴	（佐賀工④経）	WTB	177	84
重見彰洋	（松山商③人）	CTB	181	87
櫻谷　勉	（伏見工③経）	CTB	180	83
北川智規	（東山④経）	WTB	174	77
有賀　剛	（日川④経）☆	FB	175	84

☆…主将

eventually resulted in a try for wing Kenji Shomen.
But that was canceled out two minutes later by Aruga, who took a superb angle from an inside pass from flyhalf Ryota Fujii before beating three would-be tacklers with his change of pass and direction.
To round off an impressive performance, the Kanto fullback put in a textbook tackle in the final minute on Shomen as the speedster looked to be on his way to a consolation try.
"Doshisha attacked well but our defense was excellent," said Kanto head coach Hiroshi Haruguchi. "We kept our line and formation and never went backwards. I am very proud of my players."

Final Game

The history book said it was Kanto Gakuin University turn to lift the silverware.
The formbook had Waseda University as the overwhelming favorite.
In the end, form and a little help from Mother Nature prevailed as Waseda beat Kanto 41-5 to win the 42nd University Championship at Tokyo's National Stadium.
The last four finals had seen Kanto beat Waseda in 2002 and in artic-like conditions in '04, while Waseda had triumphed on a glorious spring-like day in '03 and in '05.
For Kanto, captain Go Aruga -inconsolable at the end -once again led by example but his team was well beaten.
"Waseda were well prepared and well coached," said Kanto assistant coach Murray Henderson. "They had a good plan, put us under pressure and played smarter."
(Extracts from the article by Rich Freeman in the Daily Yomimuri issued on January 3 and 9, 2006. Gratitude is expressed by permission to use these quotes.)

大学ラグビー部、全国大学選手権9年連続決勝進出 第42回大会は準優勝

日本ラグビー選手権大会8年連続出場

▶見事なステップで突破する有賀剛キャプテン
第43回日本選手権1回戦（2月4日、秩父宮）
関東学院大7-12コカ・コーラWJ

関東大学ラグビーリーグ戦９度目の優勝

全国大学ラグビーフットボール選手権大会9年連続決勝進出と日本ラグビー選手権大会8年連続出場は大偉業である。関東大学ラグビーリーグ戦9度目の優勝も見事であった。春口廣監督、コーチをはじめ学生たちの大活躍に盛大な拍手を贈りたい。

ベースボール・マガジン社発行『ラグビーマガジン（2006年3月号）』から抜粋引用して、関東学院大学ラグビー部がいかに大偉業を成し遂げたかをお伝えしたい。

良くも悪くも、今季の関東学院大は有賀のチームだった。春口監督も「体で、プレーでチームを引っ張ってくれた」と絶賛するスキッパーは、欠場した試合で、その存在感をみせつけた。有賀がケガで欠場したリーグ戦6戦目の東海大戦で、よもやの敗戦。有賀が復帰した次戦から連勝を再開すると、法大との天王山では、21―14と拮抗した展開で、有賀が10人抜きの離れ技から、最後も自らトライをマーク。リーダーの奮闘に押されるように、チームも一気にライバルを突き放した。

大学選手権では、個々の能力では関東学院大にも劣らない同志社大を封じ込めて決勝まで駒を進めたが、最後はFWの差に屈した。ボールを自慢のBKに供給しても、常に早大の重圧を受けながらの攻撃では、さすがの“黄金のバックスリー”のスピードも半減。下級生が多く、FWでリーダーシップをとる選手が少なかったのも響いた。

▲準優勝の賞状を受け取る有賀剛主将

敗れたとはいえ、9シーズン連続で選手権決勝に進出した実績は、早稲田の連覇に劣らない快挙。（吉田　宏）

毎年、毎年、その年のチームの物語を完結させる学生ラグビーは、ピッチの上も外も、勝っても負けても、いつも打算のない熱を帯びている。歓喜。気迫。そして嗚咽。今年も大学選手権期間中、口先でなく、腹の底から聞こえてくる言葉に出会った。

1月8日　決勝

関東・春口監督は敗因を聞かれ「ワセダが強かったということ。最強チームということで、どこかに隙が出るんじゃないかと思ったけどまとまりが強固で、我々の入り込める隙がなかった。完敗です。（早大は）素晴らしいチームだったと思う」「完敗。ワセダのディフェンスが良かった」と兜を脱いだ有賀主将は「ワセダは15人全員が『アルガ！アルガ！』と言ってる感じ。マークが厳しかった。やりたかったことをやられた感じ」とため息をつき「サイボーグ軍団には勝てません」とポツリ。

勝った早大の清宮監督は「我々は1年間を通して、決勝で関東学院と戦うことをイメージして練習してきた。だから決勝前の1週間も、特別にやることは見あたらなかった」と話し、（記者）会見の最後には自らマイクを持ち、宿敵にエールを。「このゲームは、関東が決勝の舞台に上がってきてくれなければ成り立たなかった物語。熱いゲームをしてくれたことを感謝しますし、ライバルとして誇りに思います」。

（大友　信彦）

『ラグビーマガジン（2006年３月号）』で第42回全国大学選手権インサイド・リポート”「反骨の挑戦者。打倒早稲田の4年間」と題して5ページも割いて主将の有賀剛君が特集された。異例の扱いである。その理由は、取材をされた村瀬学氏の次の冒頭の文章が物語っている。

今季の大学シーンを盛り上げたのは、アカクロだけではない。宿敵

Semifinal Game

The streaks are very much alive and well.
Kanto Gakuin University ensured it would take part in its ninth straight university final, and Waseda University its fifth straight, following contrasting victories in their respective semifinals at the National Stadium.
On a cold and wet day in the nation's capital, a number of Japan's brightest young rugby stars managed, despite the slippery conditions, to show just why they are so highly rated as Kanto Gakuin beat Doshisha University 31-15 and Waseda powered past Hosei University 61-5.
"It was a very good game," said Kanto captain Go Aruga. "The forwards did very well and we'll try our best to win next week."
Aruga was the driving force behind his team's victory and it cannot be long before he follows his father, Ken, into becoming a full international, while any one of six Waseda players could have been named man-on the-match.
In the day's first game, Kanto Gakuin was made to work hard for its win against a determined Doshisha side, but two tries from Tomoki Kitagawa and superb effort by the classy Aruga proved to be the difference between the two sides.
Aruga was constantly sound in defense and always a threat on attack and his try in the 52nd minute proved to be the defining moment of the game.
Doshisha had taken an early lead through a try by Takehisa Usuzuki, only for Kanto to fight back to lead 17-8 at the interval.
But the Kyoto-based school started the second half in an inspirational style and 10-minutes of pressure

全国から注目される学生支援室

本学では、より充実した学生生活を送ることができるように！を合言葉に、2004年4月に学生支援室を設置しました。学習面のことや日常生活にまでも至る、学生生活に関わるすべてのことに対して支援しています。大学入学後は不安の面も多く学生生活での時間配分や学習体系も様変わりします。例えば、1年間の講義予定や科目の選択まで、すべて自分の責任で組み立てていきます。履修が分からなかったり、授業を受けてみて学習力に不安を持ってしまったりする場合もあります。また、学生生活面での個人的な悩みとか、トラブルに巻き込まれたとか、日常的問題を解決するための具体的な支援しています。それから、将来を見据えた上で就職といった大きな問題もあります。そのために必要な資格を取得したい。英語能力をさらに伸ばしたい等々。学生支援室には、先輩学生となるピア・サポーターや各科目専門の先生が学生支援室には常駐しており、同じ仲間としてマンツーマンでアドバイスします。ですから、聞きづらいとか、支援室に入りにくいとか、そんな雰囲気はまったくありません。気軽に来室し、構えることなくアドバイスが受けられます。

もちろん大学には、教務課、就職課、学生生活課、国際センターといったような各種機能を備えた専門窓口があります。しかしながら、まだ、大学生活に慣れていなかったり、内容によっては相談部署が分からなかったり、そんな時に様々な相談にのりアドバイスを行い、時には適切な専門部署を紹介する。いわば大学の「よろず相談」そんな役割を果たしているのが学生支援室です。

そして、もう一つの大きな役割は、学生の考えていることや、大学や教職員に対してどのような要望があるかなどを的確につかみ、教育の現場や学生生活に還元するといった情報収集や分析を行っていることです。学生の皆さんと大学を結びつけるパイプ役ともいえます。学生たちが気軽に入れるようなフリースペースがあり、遠慮なく何でも話せる、教職員というよりも友達感覚で会話を楽しむ。そんな雰囲気で学生の居場所になっています。今年度は12月までに既に18,855名の学生が来室しています。電話での相談にも応じておりますので、何かありましたら遠慮なくご相談いただければと思います。

（2006年2月2日、NHK総合テレビの1都6県ニュースネット「キャンパス探訪」で本学の学生支援室が大きく取り上げられました。）

Activities of ACSEL (Assistance Center for Student Life and Learning) Being Widely Noticed

Kanto Gakuin University's ACSEL (Assistance Center for Student Life and Learning) was organized in April 2004. ACSEL assists students in their academic subjects as well as in their daily life. It is a student support/counseling room for everything and everyone.

Another role of ACSEL is to find out what students are thinking and their desires so that the university and faculty can better help the students. The Center acts as a go-between in helping students and faculty work together to make the university environment better for all.

From last April to December, students have visited ACSEL 18,855 times.

活躍する個人・団体

各校トピックス①

阿久津真倫君(経済4年)、箱根駅伝「花の2区」で快走

チームの思いが詰まった1本の襷(たすき)が箱根路を駆ける東京箱根間往復大学駅伝(箱根駅伝)。母校の出場がかなわなかった選手のうち、予選会で上位に入ったランナーで構成する「関東学連選抜」も、さまざまな気持ちを乗せて襷(たすき)をつなぐ。関東学院大学から選ばれた阿久津真倫君(経済学科4年)は“花の2区”を担い、区間10位と奮闘した。

「思ったより調子がよくて、考えた通りのペースでいけた」と阿久津君。目標だった1時間9分台で走り抜け、納得の表情だった。(公式タイム1時間9分50秒)

12位でたすきを受け取ると、正確なピッチで前方集団との差を詰めた。松岡君(順大)、竹沢君(早大)ら強豪校のエース級との競り合いも制し、順位も2つ押し上げた。

権太坂(14キロ付近)を上り切った辺りで三島君(国学大)に振り切られ、「そこが反省点だが、全体的には満足いく走りができた。やっぱり沿道の応援がすごかった」。学生最後の箱根を満喫した。

「これですっきり卒業できる」と阿久津。4月に実業団のJALAGSに就職する予定で、新天地ではマラソンを目指す。

※2区は鶴見―戸塚間23.2キロ

文責◎瀬沼達也(以上の文は、神奈川新聞「かながわスポーツ」欄に1月1日「走るのが好きだ」、3日「最後の箱根を満喫」と題した掲載記事に基づくものである。感謝申しあげる。)

かながわスポーツ

「走るのが好きだ」

学連選抜の阿久津

総合初優勝のチャンスあり

東海大

あすから箱根駅伝

豊かな発想、構成力に評価

作文コンクール

入選

ずっと元気でいて

入選

甲子園で応援したい

▲2005年10月26日発行「読売新聞」

各校トピックス②

藤田梨佳子さん(六浦小3)の作文、県代表、中央出品作に輝く

「第55回全国小・中学校作文コンクール」(読売新聞社主催、文部科学省、各都道府県教育委員会後援)の小学生低学年の部において、六浦小学校3年の藤田梨佳子さんが書いた「わたしのひいおばあちゃん」の作文が、県代表、中央出品作に選ばれた。

「目を病んでしまった曽祖母の不幸を、幸せいっぱいにしてあげた筆者の心がよく描かれている」と審査委員長から評価された。

Active People and Groups

An essay entitled 'My Grandmother' written by Ms. Rikako Fujita, a 3rd grader at the Mutsuura Elementary School was chosen as a representative essay in the lower grade (1st to 3rd) division for the 55th All Japan Elementary and Junior High School Essay Contest.

During January 2nd and 3rd, 2006, Japanese traditional New Year's event called the Ekiden Race between Hakone and Tokyo was held. Mr. Mosatomo Akutsu, a senior of the College of Economics, a member of the Kanto Gakuin University Athletic Sports Club Team participated as a delegate from the Student Athletic Sports Association and bravely ran the 2nd section of the Ekiden Race between Tsurumi and Totsuka in Yokohama on the first day.

インターネットで合同クリスマス

キリスト教と文化研究所長　　森島　牧人

今、キリスト教と文化研究所の「国際理解とボランティア」研究プロジェクトでは、学院のモットーである「人になれ　奉仕せよ」の精神を実現することを目差した教育プロジェクト（国際サービス・ラーニング）に取り組んでいます。グローバル化が進む国際社会の中で、国と国、民族と民族、文化と文化、社会と社会、そして特にそこに生きる一人一人の人間がこの地上で時を共有するものとしての「共生の精神」を涵養し合うためには、国際間の相互理解が最重要課題となるからです。そのためには、「ボランティアの精神」を軸にした国際サービスラーニングに関する理論と実践研究は欠かせないものであると考えています。

当研究所では、昨年の12月22日、この「国際理解」をテーマとした1つのプロジェクトを行いました。これは、「インターネットを用いて各々（各大学）が持つコンテンツ（知的財産）を共有するための実験」の一環で、NTTの協力の下、産学連携の形で行われています。私たちは、国際専用回線と遠距離テレビ会議システムを用いて行われた今回の実験の成功により、本学が、海外の提携諸大学とインターネットを用いて試験的に合同授業・ゼミナールおよび研究会等を行う段階に来ていると確信しています。

さて、今回の実験で用いたコンテンツは、12月に相応しい「クリスマス」です。企画としては、タイ山岳少数民族の児童と関東学院六浦小学校児童を国際専用回線で結び、ひとつの「クリスマス・プログラム」を共有するというものでした。

六浦小学校では、これまでも12年間にわたって、カレン族（タイ北部山岳地帯に住む少数民族）の子供寮を支援してきました。カレン族をはじめとする山岳少数民族は、彼らの置かれた社会的環境から今でも市民権を持っていません。また共通言語であるタイ語の習得等の教育機会すら殆ど与えられていません。その結果、彼らを待ち受ける生活環境は非常に苛酷です。男子もそうですが、女児を取り巻く環境は容易に人権問題を孕みます。六浦小学校での取り組みは、カレン族の子供達に必要な教育機会を与える目的で始められた、カレン・バプテスト教会の子供寮（児童数150名）を支援することです。

今回行われた「合同クリスマス」では、この子供寮の児童20名と、大里エミ宣教師婦人（文学部卒）が援助している「愛の家」（エイズ孤児施設）の子供達40名を招きました。六浦小学校児童・保護者・教師（約600名）は、映像と音声を同時双方向でやりとりしながら、タイの児童とクリスマスのひとときを共有しました。とても楽しく、心が温かくなるものでした。プログラムの最後では、讃美歌109番「きよしこのよる」を日本語とタイ語で交互に賛美し合い、共に主イエス・キリストの御降誕をお祝いしました。両国の児童は、これまで話でしか知り得なかったお互いの姿を画面で確かめ合いつつ、別れを惜しみ、最後まで手を振り続けていました。

▲タイの子ども達に挨拶する森島牧人所長

▲別れを惜しみ手を振る子ども達

今回の「六浦・チェンマイ同時中継こども交流会」は、NTT東日本―神奈川　法人営業部、NTT情報開発（株）並びに電子システム（株）各社の多大なるご協力により実現しました。また2006年2月13日から2週間、NEC様のご厚意により同社ホームページbiglobeに同クリスマス交流会の様子が7分間の動画で配信されました。この場をお借りして感謝申しあげます。

Joint Christmas Program Relayed by Internet

By Rev. Makito Morishima, Director of the Institute of the Study for Christianity and Culture

Under the auspices of the Study for Christianity and Culture at Kanto Gakuin University, a joint Christmas program held by Kanto Gakuin Mutsuura Elementary School pupils in Japan and Thai children in Thailand from Tee Waa Tha Village and the Love House where orphans with AIDS live, was relayed on the Internet on December 22nd, 2005. Through this experience, many of the children in both countries felt a mutual existence.

This trial was an experimental project titled 'International Understanding', which is a part of the project, 'Each university's Joint Usage on the Internet' . As a result of this success, the Institute is convinced that KGU can continue this research project by offering mutual lectures with affiliated universities via the Internet.

生涯学習センター Information

［大学生涯学習センター報告］

自己点検・評価と今後の施策

大学生涯学習センター所長　中原功一朗（経済学部共通科目教室教授）

この程、生涯学習センターでは、自己点検・評価を行いました。2002年の設立以来、講座数、受講者数とも順調に伸びてきましたが、「『開かれた大学』として生涯にわたる学習機会を広く社会に提供することにより社会に貢献すること、特定の目的(免許・資格の取得、試験対策等)のための課外講座を提供し、在学生に対する『キャリア支援』を行う」という、目標の達成のためには、より踏み込んだ検討、改善が必要であると思われます。

現在、生涯学習センターでは、「開かれた大学」という理念・目的の実現のために公開講座が、「キャリア支援」のために資格講座が開講されています。明確な目的と手段の組み合わせにより、一般社会人、在学生双方のニーズに対応していると言えるでしょう。しかし、公開講座を入り口として、多くの一般社会人が正規の授業科目も履修するようになって初めて、「開かれた」大学と言えるでしょう。また、「キャリア支援」という大きな枠組みの中に資格講座を位置づけ、各学部、就職部等との連携を強化する必要もあります。

今後の改善・改革に向けた施策を以下に述べます。まず、公開講座については、正規の授業科目との関連性を受講者に対して明確に示すことにより、より深く学びたい受講者に対する情報提供を行うと同時に、教務課との連携を図りながら、科目等履修生の制度についても、PRを行う必要があります。また、資格講座については、正規の授業科目との関連性を受講者に対して明確に示すことにより、学生に対して系統的な履修を促すと同時に、就職部との連携を図り、業界・職種と資格講座の科目との関連性を明確化して、「キャリア支援」という大きな枠組みの中で、資格講座を機能させるような取り組みを強化する必要があります。

生涯学習センターでは、今回の自己点検・評価を基に、これらの施策を実行するための具体的な取り組みを既に始めています。理念・目的の実現、受講者サービスの向上を目指して、今後も努力してまいります。今後とも、生涯学習センターの活動にご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

公務員試験対策講座風景

＊公開講座・春学期「ラッピング講座」「日本の文化」他21講座あります。秋学期の講座は、6月以降発表いたします。
＊資格講座・公開講座についての詳細は、生涯学習センター（Tel・045-786-7892）にお問合せください。または、関東学院大学のホームページ（生涯学習センター）をご覧下さい。

2006年度春学期公開講座

●金沢八景キャンパス
1．韓国語会話入門
2．韓国語会話初級
3．イタリア都市紀行２
4．やさしいパソコン
5．ゴルフ
6．中国語会話　中級Ⅰ
7．色彩講座
8．コンサートシリーズ第６回
9．日本の文化（大学で寄席を）
10．木工教室
11．陶芸教室（親子）
12．ラッピングコーディネーター
13．保育実践講座
14．フランス語会話

●金沢文庫キャンパス
1．ラグビー
2．英会話

●関内メディアセンター
1．行政評価・経営の時代
2．商店街大学第2回
3．ストックメンテナンスの最前線
4．ホスピタリティ・コミュニケーション
5．現代のジャーナリズム=神奈川からの発信
6．共生社会の明日を考える
7．ラッピングコーディネーター
8．やさしいパソコン講座
9．韓国語会話入門
10．哲学
11．実用パソコン講座Ⅰ

●小田原キャンパス
1．韓国語入門
2．小田原市市民講座パソコン

資格講座（対象：学生・一般）

●金沢八景キャンパス
1．公務員試験対策(栄養士・保育職)講座
2．簿記検定3級検定対策講座
3．秘書技能検定2級対策講座
4．3級ファイナンシャル・プランニング技能士試験対策講座
5．旅行業務取扱管理者（国内・総合）試験対策講座
6．公務員試験対策講座（春学期）
7．宅地建物取引主任者試験対策講座
8．マイクロソフトオフィススペシャリスト試験対策講座
9．インテリアコーディネーター試験対策講座
10．初級システムアドミニストレータ試験対策講座
11．ホームヘルパー2級養成講座
12．TOEIC受験対策講座
13．販売士2級試験対策講座
14．福祉住環境コーディネーター3級試験対策講座
15．カラーコーディネーター3級試験対策講座
16．簿記検定2級検定対策講座
17．秘書技能検定準1級講座
18．2級建築士対策講座
19．公務員試験対策講座（秋学期）
20．教員試験対策講座

●金沢文庫キャンパス
1．秘書技能検定2級対策講座

●小田原キャンパス
1．秘書技能検定2級対策講座

Self-Check and Evaluation

by Koichiro Nakahara, Director of Life-Long Education Center

In 2005, we finished a self-check and evaluation of the Kanto-Gakuin University Life-Long Education Center. We have found that we meet the needs of the society at large for life-long learning and that we are contributing to our university's career support program to a certain degree. At the same time, however, we have recognized the following two points:
(1) Offering our open college program alone is not enough to become a university open to everybody.
(2) Offering our qualification-exam preparation courses alone is not enough to give efficient career support to our university's full-time students.

In order to be called a university open to everybody, we need to have many people in various age groups take our credit-approving courses as part-time students. In order to enhance our career support, we need to place our qualification-exam preparation courses in the comprehensive framework of our university's career support program. So, we have already started to take some measures. We will continuously make efforts to improve our programs and services.

関東学院 創立121周年記念式 挙行される

2005年10月6日（木）、関東学院は創立121周年を迎えました。
式典としては大学金沢八景キャンパス礼拝堂において、
10月8日（土）の午前9時から祈祷会、
午前10時から記念式典が挙行されました。
記念式では松本昌子学院長の式辞、内藤幸穂理事長の挨拶に続き、
永年勤続者の表彰が行われ、勤続満35年教職員14名、
勤続満25年教職員9名が表彰されました。

表彰受賞者

永年勤続表彰受賞者（35年）

大学

久保　新一	渡邉　紀子
櫻庭　英剛	北田　良雄
田山　美智子	髙嶋　八郎
西野　芳夫	滝口　明
宮武　俊弘	都築　埴雅

中学・高等学校

小知和　弘子

六浦中学・高等学校

岩部　文彦

法人事務局

近藤　美恵子　　菅原　道郎

永年勤続表彰受賞者（25年）

大学

合田　邦雄	小泉　浩子
広尾　純	佐藤　義治
佐々木　康	長井　正夫
小川　昌幸	細井　武

中学・高等学校

篠原　望

役員人事

2006年3月24日現在
①最終学歴　②現職　③就任年月日

［新任役員］
平松友康 ひらまつ ともやす

①早稲田大学大学院理工学研究科
②理事（大学工学部長）
③2006年（平成18年）1月26日

［退任役員］
大野功一 おおの こういち

①理事（大学長）
②2005年（平成17年）12月18日

The University chapel on Kanazawa Hakkei campus of Kanto Gakuin University was the venue for Kanto Gakuin's 121st anniversary celebration on October 6th, 2005.

Continuous service awards for the faculty and the staff were given to fourteen persons (35 years' service), nine persons (25 years' service), respectively.

Employed and Retired Members List of Kanto Gakuin Personnel

1 New Member of the Board of Trustees
1 Retired Member of the Board of Trustees

キリスト教教育活動他報告

学院宗教主任●高野 進

学院創立記念日(10月6日)を含む一週間において、各校では、これを記念して特別の礼拝を行った。

学院としては、10月8日(土)に午前9時から学院創立記念祈祷会(説教は村上顕大学宗教主事)が行われた。続いて、記念式典が行われた。

学院クリスマス・コンサートは、今年もみなとみらい大ホールを会場に、12月15日に開催された。第一部は六浦小学校クリスマス・ペイジェントと両小学校児童によるクリスマス曲の演奏があった。第二部は、学院聖歌隊と古典音楽協会によるヘンデル作曲「メッサイア」の演奏が行われた。

本学キリスト教と文化研究所の坂田祐研究グループは、これまで坂田祐先生(1878-1969)の日記を読んできた。このたびその一部の読解報告が2月17日に行われた。発題者は、共に同研究所客員研究員、元関東学院中学高校教諭の坂田創先生と佐々木晃先生。

The Christian Education Activities:

The week around the October 6th, our foundation day, each school planned to study the spirit of the foundation of Kanto Gakuin at the chapel hours or in the special programs.

The former and present teachers and graduates gathered at the Mitsuzawa Cemetery to honor the late chancellor Dr. Tasuku Sakata on the morning of December 16th, 2005.

The Kanto Gakuin Christmas Concert was held at the Minatomirai Hall on the evening of October 15th. In the first part pupils from our kindergartens, elemantary schools and high schools participated in the pageant of the Nativity story. In the second part the Kanto Gakuin Choir and the Society of Classical Music performed Haendel's Messiah.

関東学院各校NEWS

大学

高橋賞、笹田芳秋両名誉教授、秋の叙勲綬章

大学名誉教授、高橋賞先生は、多年の教育研究に従事し国家または公共に対する功績が顕著であるとして、11月3日付、瑞宝中綬章を綬章された。

大学名誉教授 笹田 芳秋先生は、多年の教育研究に従事し国家または公共に対する功績が顕著であるとして、11月3日付、瑞宝小綬章を綬章された。

湯澤正信教授（工学部建築学科）、第24回福島県建築文化賞正賞を受賞（作品：福島県立いわき光洋高校）

この賞は福島県と県建設業協会、県建築士会らが1982年度に創設したもので、地域の環境に調和し、景観上優れた建築物をたたえるものについて表彰されるものである。

総評では「太陽光発電パネルなどの水平線を強調した外観デザインによって近代的で魅力的なまちなみ景観を創出している」とし、「長年にわたる建設プロセスの過程で、設計競技によって設計者が選定され、その当選案は実施設計や建設時の段階で教師や生徒たちと積極的にワークショップなどを行って深耕された。それらの成果が施設の随所に反映されており、運用面についても地域特性を生かした環境対応型のエコスクールをめざす積極的な同校の取り組みなどについて高い評価を得た」としている。

表彰式は1月17日、福島県の杉妻会館で行われ、式後には「連続する生活・学習空間」をテーマに湯澤教授が講演を行った。

中根美香さん（大学院土木工学専攻博士前期課程1年）、第40回地盤工学研究発表会で優秀論文発表者賞を受賞！

2005年7月に開催された第40回地盤工学研究発表会で、大学院土木工学専攻博士前期課程1年、中根美香さんが、優秀論文発表者賞を受賞した。この賞は、（社）地盤工学会の研究発表会（全国大会）において、全千二百余編の投稿論文の中から選ばれた約五十編のうち、優れた講演がなされた論文に対して表彰されるものである。

講演題目：軟弱地盤に埋設された入孔の地震時浮上がりに関する振動台実験

連名者：規矩大義（指導教授）、内山明日香（土木工学科4年）

小山田仁子さん、平成18年度表面技術協会「進歩賞」を授賞

小山田仁子さん（工学研究科工業化学専攻博士後期課程3年生／本間英夫研究室）は、2006年2月27日に弘済会館（東京）で開催された、平成18年度表面技術協会通常総会において「進歩賞」を受賞した。業績は、電気銅めっきの電流波形制御によるビアフィリング。

福田誠一郎君（人間環境学部人間環境デザイン学科4年）、平成17年度優秀学生顕彰（ボランティア活動分野）で優秀賞を受賞

日本学生支援機構では、学問や文化・芸術活動、スポーツ活動、社会貢献活動の分野で優れた業績を挙げた学生に対して「優秀学生顕彰事業」を行っている。

平成17年度優秀学生として本学の福田誠一郎君がサークルHEPでのボランティア活動が認められ、12月17日にアルカディア市ヶ谷（東京）で行われた表彰式において優秀賞（奨励金30万円）を受賞した。

大学主催シェイクスピア英語劇第54回公演『テンペスト』上演 ブリティッシュ・カウンシルから後援を得 俳優座元演出からも高い評価

48年から続く伝統のシェイクスピア英語劇は05年11月25日～27日まで神奈川県民共済みらいホールにおいて46名の学生が、『テンペスト』を3回、各公演約2時間20分で上演した。主催はシェイクスピア英語劇実行委員会、後援はブリティッシュ・カウンシル・横浜市・横浜市教育委員会・横浜市芸術文化振興財団・神奈川新聞社・tvk（テレビ神奈川）であった。通常、ブリティッシュ・カウンシルは、学生主体の行事には後援しないことになっているが、半世紀を超える活動実績が評価されこの度の後援となった。

『テンペスト』は、シェイクスピアが単独で執筆した最後の作品で、全戯曲中2番目に上演困難とされているが、観劇された、みらいホール館長で元俳優座演出の佐竹修氏から高い評価を

On February 27, 2006, Ms. Kimiko Oyamada, 3rd year graduate student in the Course of Industrial Chemical Engineering under the supervision of Dr. Hideo Honma, received the Progress Award of Surface Technology Association for 2005.

Under the auspices of Kanto Gakuin University, the 55th production of a Shakespeare English Drama was performed four times at the Kanagawa Kenmin Mirai Hall from November 25th to 27th . The play, The Tempest, was performed by 44 university students on each of the three days. A large audience in the hall highly appreciated the production sponsored by the British Council, Yokohama City, as well as others. The text used was the same one as the Royal Shakespeare Company uses.

On December 17, 2005, Mr. Seiichiro Fukuda, a senior of the Department of Environmental Design, received the Excellent Student Award for Volunteers in the Japan Student Support Organization. Mr. Fukuda's volunteer activities in the Human Environmental Project circle has been highly evaluated by the organization.

Kanto Gakuin University's Karate club took third place in the fall league held by the Japan Karate Association on November 6, 2005, at Komazawa University.

The University baseball team won the Championship of the Kanagawa Collegiate Baseball League by defeating Kanagawa University 3-2 on October 20, 2005 at Sagamihara Stadium. This was 48th

得た。この戯曲はプロの劇団が上演しても成功例は少ない。今までピーター・ブルックや蜷川幸雄が演出した『テンペスト』、RSCのそれも観たが、きょうの芝居を観てはじめて『テンペスト』が面白い作品だと思った。完成度が高い舞台だったので、同じメンバーで再演して、もっと多くの一般の人たちに観てもらったらどうだろうか。（劇評抜粋）

大学空手道部、日本空手協会（秋季）1部リーグ戦、第3位入賞

11月6日（日）、駒澤大学で開催された日本空手協会（秋季）1部リーグ戦において大学空手道部は、3勝1敗1引き分けの下記成績により第3位入賞した。

1回戦　本学　3対2　国士舘大学
2回戦　〃　2対2（1引き分け）駒澤大学
3回戦　〃　1対4　大正大学
4回戦　〃　4対1　千葉工業大学
5回戦　〃　4対1　青山学院大学

硬式野球部、神奈川大学野球春季リーグで2季連続48度目の優勝、横浜市長杯争奪関東地区大学野球選手権大会に出場

本学硬式野球部は2005年10月20日、県立相模原球場で神奈川大学野球秋季リーグの関東学院大―神奈川大の3回戦を行い、関東大が3対2で勝って2季連続48度目の優勝を飾った。本学は秋季10勝2敗で、全チームから勝ち点を挙げる完全優勝。最優秀選手に内田徹君（経済4年）が選ばれた。

これにより横浜市長杯争奪関東地区大学野球選手権大会に出場したが、東京情報大に2対6で惜敗した。同大会開会式では、神奈川、千葉県、首都、関甲新、東京新の出場5リーグの選手、関係者らがグランドに整列し、諸角洋大主将が宣誓した。

中学校高等学校

高1校外行事「自己を見つめる生活」

例年通り、9月下旬に2泊3日で行われましたが、例年と違うのは、次年度から始まる新研修旅行の予備学習を兼ねていた点です。次年度より、高2の研修旅行先は中国、韓国、台湾、沖縄となり、その四方面ご出身の大学（院）生をお招きし、お話を伺いました。

▲パネルディスカッション風景

初日は、パネルディスカッション形式で四氏から其々の思いや意見を伺いました。沖縄出身の学生は、出身地である石垣島の自然や人情の温かさ、戦争についてあまり話したがらない年配者などについて語りました。三人の留学生は、祖国の食文化や日本に留学した理由、兵役義務

▲積極的に発言する生徒

◀講師のお話を熱心に聴く生徒

University

On November 11th, 2005, Dr. Susumu Takahashi, Professor Emeritus of Kanto Gakuin University received the decoration of the Middle Order of the Sacred Treasure from Japan's Emperor. Dr. Yoshiaki Sasada, Professor Emeritus of Kanto Gakuin University received the decoration of the Small Order of the Sacred Treasure from Japan's Emperor at the same ceremony.

On January 17, 2006, Professor Nasanobu Yuzawa, Department of Architecture, received the 24th Fukushima Prefecture Architecture-Culture Award for his work, Fukushima Prefectures's Iwaki Koyo Senrio High School, at Sugizuma Kaikan Hall in Fukushima. He gave a special lecture entitled "Continuous Living and Study Space" on the same day.

In July, 2005, Ms. Mika Nakane, 1st year graduate student in Civil Engineering Course, under the supervision of Dr. Hiroyoshi Kuki, received the Excellent Lecture Award Prize of the 40th Ground Engineering Research Society.

On January 25th, 2006, at Kogakuin University, Mr. Yasuhiro Shibata, 2nd year graduate student in the Course of Industrial Chemical Engineering under the supervision of Dr. Hiroaki Kasai, received the Encouragement Award Prize of Material Life Society for the 10th Winter Research Symposium.

などについて語りました。

二日目は方面別に分かれてのフリートーキングが持たれました。中でも韓国コースはハングル文字で盛り上がりました。留学生がホワイトボードにハングル文字を書きながら、これは舌の形、これは舌の位置を表わしますなどと説明すると、生徒も口の中を意識しながら発音していました。自分の名前のハングル表記を教わって得意気になっている生徒もいました。

最終日のまとめの会では、歴史の捉え方は国によって異なるということを実感した、と発表した生徒もいました。日本では伊藤博文はお札にも登場した名士ですが、韓国では伊藤を暗殺した安重根こそが英雄です。自分は日本人だからという理由で、ただ闇雲に日本を愛する愛国心ではなく、日本が周辺諸国でどんなことを行ってきたのか、その補償や謝罪は十分なのか、なぜ今韓国・中国で反日感情が高まっているのか、歴史を直視し多方面から検証する姿勢を生徒には養ってほしいと願います。新研修旅行と事前・事後学習が、そうした姿勢を培う機会となることを期待しています。

教諭　堀江美穂

六浦中学校高等学校

収穫感謝礼拝

本校では、アメリカの教会から始められた収穫感謝礼拝を例年を行っています。今年度は十一月二十一日（月）に高校生が、二十二日（水）には中学生が本校の礼拝堂で、神の日頃の恵みに対して、心から感謝の礼拝をささげました。この礼拝のために、生徒と教職員のみんなが果物や野菜を家庭から持ち寄りました。礼拝では、さまざまな色や形の果物と野菜を前にして、神様は何一つ同じものを創造されはしないことを改めて学びました。そして、この世にある全てが、かけがいのない尊いものであり、お互いに尊重すべきことを学びました。普段無意識に口にしている食べ物も、そのように尊いものであり、それをいただくわたしたちは、心から神様に感謝しなければならにことを深く学びました。

みんなから寄せられた果物や野菜は、横浜訓盲院、上郷苑、幸保園、聖星学園の施設に届けられました。とても実り豊かな収穫感謝礼拝でした。感謝いたします。

聖書科主任　木本喜將

▲収穫感謝礼拝での聖歌隊の讃美

▲収穫感謝の気持ちで持ち寄った果物と野菜

小学校

野田淳子さんを迎えての音楽鑑賞会

十一月十六日（水）、音楽観賞会を礼拝堂で行いました。今回はシンガーソングライターの野田淳子さんをお招きしました。野田淳子さんは今年で歌手生活三十五年目を迎えます。金子

▲野田淳子さんの演奏を心で受けとめる児童

Kanto Gakuin Elementary School

On November 16, 2005, the Elementary School pupils were able to attend a special music concert by Ms. Junko Noda, a singer songwriter at the School chapel.

Kanto Gakuin Mutsuura Elementary School

December 22nd, 2005, an exchange meeting via two big screens and web-cameras between the Mutsuura campus and Thailand's Tee Waa Tha Village and the Love House was conducted. Under the auspices of the Institute for the Study of Christianity and Culture at Kanto Gakuin University, this exchange was relayed between both countries. Through this experience, children on both sides felt a mutual existence and understanding.

Kanto Gakuin Mutsuura Kindergarten

On December 20, 2005, the Kindergarten held their annual Christmas service. The children enjoyed it with a feeling of thankfulness.

みすゞの詩に曲をつけての歌には大変定評があります。

午後一時二十分、一年生から六年生まで集まった礼拝堂にギター一つ抱えて現れ、コンサートの幕開けとなりました。「大漁」や「私と小鳥とすずと」など金子みすゞの代表する詩をとてもきれいな声で歌って頂きました。全校児童、歌詞の意味を味わいつつ、その歌声に聴き入っていました。また、手や体を動かして歌う歌も紹介してくださり、全員で楽しく合唱しました。最後に、「大きな歌」を児童全員で歌い音楽鑑賞会を終了しました。お作りになった歌に込められた野田淳子さんの思いを充分感じながら、楽しいひとときを過ごしました。

教頭　名取　俊夫

六浦小学校

六浦・チェンマイ同時中継こども交流会

礼拝堂にある大型スクリーンを使って、子ども達の交流会を12月22日に行いました。スクリーンには、13年間六浦小学校が支援してきたティワタ村の子ども達とチェンマイにある「愛の家」の子ども達が映し出されています。「愛の家」は、エイズに感染している子ども達を支えているところです。

この交流会は、関東学院大学キリスト教と文化研究所が主催し、立案、実施されたものです。内容は、初めに讃美歌「きよしこの夜」を同時に讃美しました。次に、クリスマスのお祝いの仕方や遊びについて、お互いに質問しました。最後に、タイの子ども達に歌のプレゼントをしてもらいました。島田校長は、チェンマイに赴き、現地から本校児童に挨拶されました。

最初は、お互い硬い表情でしたが、最後は笑顔で大きく腕を振りながらお別れの挨拶をしました。中継が終わると同時に会場にいた保護者の方々から大きな拍手が起こりました。

教頭　内田　光生

▲クリスマス・ページェントの衣裳を着て質問する児童たち

▲タイの子ども達に質問する児童代表

六浦幼稚園

喜びと感謝の中で過ごす日々

アドベント1週目、子ども達はクリスマスがイエス様のお誕生日だと知りました。初めて幼稚園のクリスマスを経験する年少・年中組の子ども達には、驚きです。サンタさんだけではないクリスマス…それは、喜びと感謝にあふれています。アドベント2週3週4週と過ごす中で子ども達は聖話を聞き讃美歌を歌ったり、部屋をきれいにし飾りを作って少しずつクリスマスのお祝いの準備をしていきました。そして、クリスマスの喜びをお家の方達と分かち合おうとプレゼントやカードも作りました。又、神様からの恵みに感謝し、1週目に持ち帰った手作りの献金箱に献金もしていました。

▲クリスマスの喜びと感謝のこころを体感する子ども達

Championship title. As a result, the team took part in the first Yokohama Mayor's Cup.

Kanto Gakuin Junior and Senior High Schools

Kanto Gakuin Senior High School students in the 10th grade had a chance to reflect on their lives and consider their futures. The school invited four university students from four different areas, China, Korea, Taiwan, and Okinawa, to talk with the 10th graders. All participants gained something from this cultural and personal exchange session.

Kanto Gakuin Mutsuura Junior & Senior High Schools

*On November 21st, 2005, the Junior High School, and on November 22nd, the Senior High School held Thanksgiving services at the Chapel. The students brought fruit from home and offered thanks for their various gifts from God. They learned the importance of sharing their gifts through worship and by taking the fruit to share with others to various places.*Kanto Gakuin Mutsuura Junior & Senior High Schools

▲キャンドルライトに感謝の気持を

クリスマス当日、子ども達は喜びに包まれていました。年長組のクリスマス礼拝（キャンドルサービス）でペンライトに灯をつける時、子ども達は「神様ありがとう」と言います。それは、ペンライトの灯が暗闇の中で私達を守り導いて下さるイエス様だからです。どうぞ子ども達一人一人の心の中に神様の愛の光が灯りますように。

教諭　鈴木　直江

野庭幼稚園

―主の手足となって―

創立30年という節目を迎えた記念行事にバザーを10月22日に行い、園児手作り品の店も賑わいをみせました。年少は磁石に紙粘土を型抜きし色付けした動物マグネット。年中児は園庭の八重桜の枝を輪切りにした台に色づけしたクロマツの実をのせた松ぼっくりツリー。年長児は相談と試作を繰り返したロッククッキー2種を当日の販売も含めて担当。売り上げ金は、新潟県長岡市・小千谷市計22の幼稚園に図書カードとしてお送りできました。

▲交替で行ったお店番

▲ミニトレインもやってきたよ！

毎日神様から受ける恵を被災地のまだ見ぬ友だちと分かち合う為にと、日々の保育や礼拝・ご家庭で4月から取り組み、子どもなりに自分と他者を重ねつつ理解を深めてきました。子ロバの様にイエス様のお役に立てた事で喜びいっぱいの子ども達ですが、実は送られてくるカードの「一年前の震災を忘れずにいて下さい…」「おおきくなったらあおうね」の言葉に希望を与えられています。愛の業は小さくても幼な子と共にお互いを大切にしながら育ち合えることに感謝致します。

主事　小髙　千恵

編集後記

学報No.31をお届けいたします。学院の動向や各校のトピックスを中心に誌面の充実に意を注いで参りました。いかがでしたか。

12月下旬、大学は新学長に松井和則博士を迎え、加速して改革に取り組みます。すでに設置してある産官学連携支援室に加え、4月に研究支援室を3月に完成したばかりの工学部新棟（オリーブ・テクノ・センター）内に設けるのもその一環です。同新棟前に新設されたタッピング・ポンドには、宮沢賢治の詩「岩手公園」を添えたタッピング・ポンド銘板があります。（裏表紙掲載写真参照）学院にゆかりある方々が、歴史上著名な方々との交流があったことを知ることは、学院の構成員であるわたしたちにとっても誇りであります。

この学報をとおして社会のニーズに応える学校改革や建物設備の建設を取り上げる一方、学院の建学の精神を高揚するような記事も取り上げて参ります。この激動する世界を生きるには、しっかりと地に足の着いた歩みをすることが大切であると考えるからです。

今後も皆様に愛読される誌面づくりを目指します。ご意見ご感想をお寄せくだされば幸いです。

総務部広報課

学院や学報についてのご意見やご感想をお寄せください。
宛先　〒236-8501　横浜市金沢区六浦東1-50-1
関東学院　法人事務局広報課
電　話　045（786）7006
（E-mail:kouhou@kanto-gakuin.ac.jp）

All of the summaries (except by Rev. Susumu Takano, pp 7 - 10, Professor Koichiro Nakahara, p 20) were translated by Mr. Tatsuya Senuma. All of the English manuscripts (except Rev. Takano and Professor Nakahara) were read and corrected by Ms. Lisa G. Bond, Assistant Professor, College of Engineering.

Kanto Gakuin Noba Kindergarten

On October 22, 2005, the Noba Kindergarten held a bazaar to celebrate its 30th anniversary. The proceeds from the event were donated to the 11 kindergartens located in Nagaoka City, Niigta which were damaged from the big earthquake a year ago.

関東学院 同窓会だより

燦葉会

燦葉会活動紹介

副会長　谷田部　靖治

燦葉会は、11月5日、全国支部長会議を開催した。特に今年は、同窓会設立75周年に当たるため、今後大きな2つのプロジェクトを説明し、今後の基本的な事業方針の方向を発表した。以下に、燦葉会の2つのプロジェクトを紹介し、今後の事業活動の一端をご理解いただきたい。

（1）部会再編プロジェクト：社会の改革が進む中で大学がどのような変革を考えているのか？　に併せ、同窓会の部会活動や支部活動の現状を通じて、他大学の同窓会も参考にして、同窓会の組織強化のためには、どうあるべきか？を検討する。

燦葉会は、全国四十五支部と十部会で構成している、本部の役員と幹事は二十名で定例幹事会を運営している。また、五十名の代議員を加えた代議委員会も開催している。会員総数は既に八万六千人を超えこれまでの推移では五年後に十万人規模に拡大する見込みである。

他大学の同窓会組織では、支部的な組織はあっても、部会単位に運営しているケースは稀有であることも今回の調査で判った。部会の歴史と特色を活かしながらも、燦葉会として強固な組織を考える上で望ましい形を具体化する。

（2）プロジェクト75（事業企画）：同窓会でできるイベントを企画し継続することで、地域社会に役立ち少しでも関東学院大学の認知度を高めたい思いで、今年から2009年の学院創立125周年まで、記念講演会やイベントを主に企画検討する。

・横浜市制120周年、横浜開港150周年とダブらせ関東学院の存在を示す
・中学生・高校生向けのイベントや県下高校教諭との集いを通じて学生動員に繋げる
・同窓会支部と連携して地方高校向けに大学のPRを実施するなど

これらは、今後具体化してゆく事項であり、テーマによっては大学と相談協力して共同で取り組む課題でもある。

なかでも、神奈川県下教職員OB会との懇談会は、2005年8月20日、金沢八景キャンパスで、大野学長（当時）や学部長参加のもと開催し、教職員OBから今年も継続するように要望があった。また、青森支部では、大学の父母懇談会の日程にあわせて、支部同窓生の卒業高校に呼びかけた大学の説明会も実施した、今後も地方支部で実施を検討する。

以上、これらの課題を実際に具体化することが今年以降の同窓会の役割りと考えて取り組みたい。

大学主催「教育に関する懇談会」で熱心に質問する出席卒業生教諭

大学主催「教育に関する懇談会」で挨拶する桐木仁志燦葉会会長

Introduction to the Alumni Association's Activities

Sanyokai (Kanto Gakuin University's Alumni Association) has about 86,000 members. Its purpose is to promote mutual friendship among its members and to support the university's development.

Sanyokai has two main projects at present. One is the reorganization of the projects that the association should do as a result of KGU's reformation over the years. The other is "Project 75". The year of 2005 was Sanyokai's 75th Anniversary. Sanyokai has just started planning various events from 2005. The completion of the various events is to be in 2009, when Kanto Gakuin University celebrates its 125th anniversary and Yokohama celebrates its 150th anniversary of opening its port to foreign countries.

On August 20, 2005, the first informal gathering for discussions regarding this project was held on the Kanazawa Hakkei campus between KGU alumni teachers working in Kanagawa Prefecture and the President, Deans and faculty members.

	六浦中学校	小学校	六浦小学校	六浦幼稚園	野庭幼稚園
4月	5(水)　入学式 6(木)・7(金)　中1ガイダンス 7(金)　クラブ紹介 8(土)　始業式 17(月)　心電図検査（中1） 21(金)　生徒会講演会・生徒会選挙 27(木)　生徒健康診断（授業なし）	5(水)　始業式・入学式 6(木)　オリエンテーション 7(金)　身体測定 14(金)　イースター礼拝 25(火)　1年生小遠足	5(水)　始業式 6(木)　入学式 12(水)　イースター礼拝 27(木)　1年生歓迎遠足 29(土)　授業参観・親子方面別集会 しおん会総会・ホームカミングデー	11(火)　進級式 12(水)　入園式 13(木)　クラス懇談会 18(火)～20(木)　個人面接	7(金)　進級式 10(月)　入園・進級式 12(水)・19(水)・20(木) 保護者連絡会 12(水)～19(水)　個人面接 17(月)　わかば会（保護者会）総会 27(木)　歯科検診
5月	1(月)　生徒会総会 9(火)～12(金)　中2自然教室 10(水)～13(土)　中1オリエンテーション 13(土)　六穂会総会 18(木)　耳鼻科検診（中1） 30(火)～31(水)　中間試験	12(金)　母の日礼拝 23(火)　漢字計算テスト 24(水)　内科検診 27(土)　サイエンスショー 31(水)　春の屋内なかよし会	9(火)　校内見学会1 12(金)　母の日礼拝 27(土)　運動会	2(火)　なかよし会 10(水)　1年生同窓会 12(金)　母の日礼拝 20(土)　子育て講演会 25(木)　春の遠足	2(火)　家族の日礼拝 8(月)　わかば会（保護者会） 11(木)　内科検診 15(月)・16(火)　身体測定 22(月)　親子遠足 30(火)　年長保育参観 31(水)　こひつじひろば（未就園児の集い）
6月	3(土)　漢字検定 7(水)　春季特別伝道礼拝（花の日） 8(木)　眼科検診 10(土)　英語検定 15(木)　芸術鑑賞会 24(土)　オープンキャンパス、数検	10(土)　学校説明会 16(金)　漢字検定 21(水)　学力テスト 28(水)～30(金) 5･6年生緑の学校	6(火)　院内学校説明会 9(金)　花の日礼拝 16(金)　学校説明会Ⅰ 30(金)　校内見学会2	8(木)　歯科検診 9(金)　花の日礼拝 13(火)・15(木)　クラス懇談会 15(木)　内科検診 28(水)　子育て講演会	1(木)　年少・年中保育参観① 5(月)　わかば会（保護者会） 6(火)　年少・年中保育参観② 12(月)・13(火)　花の日礼拝・訪問 14(水)　ひとみ座観劇 17(土)　プレイデー（おうちの方と遊ぼう） 14(水)・28(水)　こひつじひろば（未就園児の集い）
7月	7(金)・10(月)・11(火)　期末試験 13(木)　球技大会 14(金)　答合せ 20(木)　終業式 28(金)～31(月)　ボランティアキャンプ	3(月)～5(水) 3・4年生緑の学校 11(火)～12(水)　2年生緑の学校 12(水)～13(木)　1年生緑の学校 20(木)　終業式	4(火)～7(金)　6年生自然学校（清里） 5(水)～7(金)　4年生自然学校（軽井沢） 6(木)～7(金)　2年生自然学校（箱根） 10(月)　校内見学会3 11(火)～14(金)　5年生自然学校（那須） 12(水)～14(金)　3年生自然学校（中伊豆） 13(木)～14(金)　1年生自然学校（城ヶ島） 15(土)　夏のタベ 19(水)　夏休み・水泳指導	1(土)　2～4年生同窓会 4(火)～7(金)　個人面談 17(月)～18(火)　お泊り会（年長） 20(木)　一学期終了	1(土)　1年生同窓会 3(月)　わかば会（保護者会） 4(火)　奉仕日 5(水)　こひつじひろば（未就園児の集い） 18(火)　終業式 19(水)・20(木)　年長お泊り会
8月	3(木)～16(水)　海外研修 4(金)～7(月)　サマーキャンプ		17(木)～23(水)　第4回タイ訪問団		
9月	1(金)　始業式 13(水)～16(土)　中3研修旅行 27(水)　中1中2社会見学 30(土)　学校説明会	1(金)　始業式・方面別下校 9(土)　院内入試・学校説明会 22(金)　神奈川県私立小学校音楽会 30(土)　秋の屋外なかよし会	9(土)　学校説明会Ⅱ 16(土)　院内入試 22(金)　神奈川県私立小学校音楽会 26(火)　前期終業式 26(火)～28(木)　個人面談	4(月)　二学期開始 5(火)　総合避難訓練 23(土)　うんどう会 29(金)　交通安全指導	4(月)　始業式 5(火)　防災引き取り訓練 7(木)・8(金)　身体測定 11(月)　わかば会（保護者会） 15(金)　おじいさん・おばあさんの日 30(土)　運動会

主な学校行事予定（4月～9月）

	大学	高等学校	六浦高等学校	中学校
4月	1(土)～4(火)　新入生オリエンテーション(学部) 1(土)　履修指導(大学院) 2(日)　入学式 3(月)～4(火)　履修指導(大学院) 3(月)～4(火)　オリエンテーション(法科大学院) 5(水)　春学期授業開始	5(水)　始業式 8(土)　高校全体香柏会 12(水)　高校県下一斉試験 14(金)　高校イースター礼拝 15(土)　香柏会総会・香柏会全体委員会 17(月)　高校生徒役員選挙 28(金)　全校健康診断	8(土)　始業式 12(水)　高校県下一斉試験 17(月)　心電図検査(高1) 21(金)　生徒会講演会・生徒会選挙 27(木)　健康診断	5(水)　始業式・入学式 8(土)　中学全体香柏会 13(木)　中学イースター礼拝 15(土)　香柏会総会・香柏会全体委員会 28(金)　中1ヨコハマベイエリアウォーク　全校健康診断・中学生徒総会
5月		11(木)　高校母の日礼拝 13(土)　香柏会スポーツ大会 15(月)～18(木)　中間試験	1(月)　生徒会総会 9(火)～13(土)　高2研修旅行 9(火)　高3卒業写真撮影 10(水)　高1薬物乱用防止教室 10(水)･12(金)　高3三者面談 12(金)　高1一日研修会 13(土)　六穂会総会 18(木)　耳鼻科検診(高1) 29(月)～31(水)　中間試験 31(水)　ボランティア活動	10(水)　中学母の日礼拝 13(土)　香柏会スポーツ大会 15(月)～18(木)　中間試験 17(水)　保護者対象部活動説明会
6月	4(日)　創造祭 12(月)　学生自治会定期総会	14(水)　高校花の日礼拝 22(木)　全校眼科検診 24(土)　オープンキャンパス香柏会葉山修養会	7(水)　春季特別伝道礼拝(花の日) 12(月)　内科検診(高3) 14(水)　ダンス発表会 15(木)　芸術鑑賞会 24(土)　オープンキャンパス 24(土)　数学検定	13(火)　中学花の日礼拝 21(水)　中2歌舞伎鑑賞 22(木)　全校眼科検診 24(土)　オープンキャンパス香柏会葉山修養会
7月	[学部・法科大学院] 15(土)　春学期授業終了 18(火)～24(月)　補講及び春学期定期試験 25(火)～31(月)　春学期定期試験 [大学院] 24(月)　春学期授業終了 25(火)～9/20(水)　夏期休業	4(火)～7(金)　期末試験 15(土)　数学検定(希望者) 19(水)　オーストラリア研修旅行結団式 20(木)　平和祈願礼拝 31(月)～8/14(月)　オーストラリア研修旅行(希望者)	6(木)･10(月)･11(火)　期末試験 11(火)　ボランティア活動 12(水)　球技大会 14(金)　答合せ 20(木)　終業式 28(金)～31(月)　ボランティアキャンプ	4(火)～7(金)　期末試験 20(木)　平和祈願礼拝 21(金)～25(火)　希望制夏季講習(前期)
8月	[学部・法科大学院] 1(火)～9/20(水)　夏期休業 1(火)～18(金)　夏期集中講義期間 20(日)　ふれあい祭り	12(土)～18(金)　学校閉鎖 21(月)～27(日)　ハワイ理科研修(希望者)	3(木)～16(水)　海外研修 4(金)～7(月)　サマーキャンプ 21(月)～26(土)　補講	12(土)～18(金)　学校閉鎖 31(木)～9/4(月)　希望制夏季講習(後期)
9月	15(金)　春学期卒業式･学位授与式 16(土)～20(水)　秋学期オリエンテーション(学部) 21(木)　秋学期授業開始 23(土)　秋分の日(授業日)	5(火)　授業開始 9(土)　オープンキャンパス 12(火)　高校人権を考える礼拝 30(土)　香柏会歴史散歩	1(金)　始業式	5(火)　授業開始 9(土)　オープンキャンパス 11(月)　中学人権を考える礼拝 30(土)　香柏会歴史散歩

Main Annual School Events (from April to September, 2006)

Kanto Gakuin University, Kanto Gakuin Senior High School, Kanto Gakuin Mutsuura Senior High School, Kanto Gakuin Junior High School, Kanto Gakuin Mutsuura Junior High School, Kanto Gakuin Elementary School, Kanto Gakuin Mutsuura Elementary School, Kanto Gakuin Mutsuura Kindergarten and Kanto Gakuin Noba Kindergarten

工学部新棟(オリーブ・テクノ・センター)前に新設された「タッピング・ポンド」銘板

学校法人

関東学院

〒236-8501　横浜市金沢区六浦東1-50-1

人になれ　奉仕せよ

関東学院大学　☎045-781-2001㈹

●金沢八景キャンパス　☎045-781-2001
- ◇経済学部
- ◇工 学 部
- ◇人間環境学部
- ◇大 学 院（経済学研究科・工学研究科）
- ◇法科大学院（法務研究科）

●金沢文庫キャンパス　☎045-786-7169
- ◇文学部　◇大学院（文学研究科）

●小田原キャンパス　☎0465-34-2211
- ◇法学部　◇大学院（法学研究科）

関東学院中学校高等学校　☎045-231-1001

関東学院小学校　☎045-241-2634

関東学院六浦中学校高等学校　☎045-781-2525

関東学院六浦小学校　☎045-701-8285

関東学院六浦幼稚園　☎045-781-0170

関東学院野庭幼稚園　☎045-845-0876

法人事務局　☎045-786-7028㈹

http://www.kanto-gakuin.ac.jp/

環境に配慮して
R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています
24000